



Title	スウェーデン語発音概説
Author(s)	清水, 育男
Citation	
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/93613">https://hdl.handle.net/11094/93613</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# スウェーデン語発音概説

清水 育男

大阪外国語大学

2002

世界を学ぶオリジナル語学教材開発プロジェクト

# スウェーデン語発音概説

清水 育男

大阪外国語大学

2002

Osaka University of Foreign Studies World Language Project

# Svenskt uttal

Ikuo Shimizu

Osaka University of Foreign Studies

2002

## はじめに

本書の前身である『現代スウェーデン語発音入門』が刊行されてから7年過ぎた。その間教室で使用しながら改善すべき点が見つかったり、何人かの方から貴重なご意見も頂戴した。また、前版が刊行された2年後にスウェーデン本国で大きなスウェーデン語発音辞典 (Per Hedelin. 1997. *Norstedts svenska uttalslexikon*) が出版され、それによりいくつかの疑問や誤解も解けた。これらのこともすべて含めて、機会があれば改訂をと考えていたところに、同僚の菅原邦城教授から、「世界を学ぶオリジナル語学教材シリーズ」の一冊に再び加えてはどうかというお話をいただいた。前版も在庫が少なくなってきたこともあり、ありがたくお受けさせていただいた。本書がこのような形で刊行できたのも、ひとえに氏のおかげである。ここに菅原氏にあつくお礼を申し上げたい。

今回は発音表記の仕方を変更し、加筆・修正・削除をしつつ、章の入れ替えなどを行ない、最新の研究成果も取り込んだ。発音の表記の仕方の大きな変更は以下の点である。

- 1) 同一音節内において強勢のある母音の後に異なる子音が連続するとき前版も含めて従来の多くの表記の仕方は、たとえば *kvist* や *halv* を [kvis:t], [hal:v] のように記述していた。確かにこれらの子音連続の最初の子音 *s* や *l* は長子音で発音されてはいるが、表記上煩雑で余剰的であることから、これら異なる子音の連続の場合には、[kvis:t], [hal:v] のように長音記号 [:] を省略することにした。Hedelin もこの表記方式を採用している。
- 2) 短母音の表記のうち前版で使用していた2記号を今回の本書では以下のように改めた。

[ɪ] → [i]                      [ɔ] → [u]

なお、念のため Hedelin (1997) の表記と本書の表記とで異なる点を挙げておく。

Hedelin		本書
[œ:]	:	[u:]
[ɔ]	:	[ʊ]
[ɛ]	:	[e]
[ə]	:	[e]

- 3) [ʃ]/[ɕ] について. これらの音はいわゆる自由変異音で, どちらで発音しても意味の相違は来さないし, 日本人には [ʃ] の発音習得のほうがより容易であることから前版では [ʃ] を用いた. 一方, [ɕ] もスウェーデン中央部や南部で広く使われており, しかも今後広まる可能性が高いと考えられるので, 今回からは [ɕ] の記号を使用することにした.

本書を私個人としては前版の改訂版として刊行していただきたいと考えていたのだが, 当プロジェクト委員会から, 改訂版ではなく書名は変えて欲しいとの要請があり, 確かに前版とは発音表記の方針も含め大幅に変更したところもあるので, その要請をお受けすることにした.

今回も発音の説明はなるべく多面的に, しかしできる限りわかりやすいようにと心がけた. 初級者が対象だが, 前版と同様に本文中に中級・上級の段階で興味を引きそうな項目について, 《参考》としていくつかの文献や説明も加えてあるが, 初級の段階ではこの部分はとばして読んでも差しつかえない.

前版に対して詳細なそして貴重なご意見を下さったばかりでなく, 本書の刊行に先だっても, 本稿に丁寧に通して頂きご専門の視点から数々の有益なコメントや巻末のスウェーデン語音声記号表までご供与して下さい下さった元同僚, 大阪外国語大学名誉教授間瀬英夫氏に心からお礼を申し上げたい. また, 同僚の新谷俊裕教授には技術面をはじめとして本書を改善する上で, 多大なご協力を頂いた. 氏の惜しみないご助力に大きな感謝の意を表したい.

間瀬英夫氏, 菅原邦城氏, 新谷俊裕氏には記して深くお礼を申し上げます. 本書に良いところがあるとすれば, それは三氏のおかげであり, 誤りはすべて筆者に責任があることは言うまでもない.

2002年1月20日

清水 育男

# 目次

## I. 文字

§ 1. アルファベット	1
--------------	---

## II. 発音

§ 2. 発音記号とその発音	4
----------------	---

§ 2. 1. 母音の発音記号とその発音	4
----------------------	---

§ 2. 2. 子音の発音記号とその発音	10
----------------------	----

§ 3. 語アクセント	15
-------------	----

§ 3. 1. どの場合にアクセント 1, アクセント 2 が現れるか	16
-------------------------------------	----

A. アクセント 1 が現れる場合	16
-------------------	----

B. アクセント 2 が現れる場合	18
-------------------	----

§ 3. 2. アクセント 1 とアクセント 2 によって意味が異なる語	21
--------------------------------------	----

§ 4. 強勢 (強さアクセント)	24
-------------------	----

§ 4. 1. 強勢の位置	24
---------------	----

§ 4. 2. 強勢の位置と意味の関係	26
---------------------	----

A. 強勢の位置によって意味が異なる語	26
---------------------	----

B. 単数形/複数形によって強勢が移動する語	26
------------------------	----

C. スウェーデン人の男女の名前 (複合語) の強勢の位置	27
-------------------------------	----

§ 4. 3. 発話・文中における強勢	27
---------------------	----

§ 5. 母音の長短	29
------------	----

§ 5. 1. 母音の長短を区別する原則	29
----------------------	----

A. 母音が短く発音される場合	29
-----------------	----

B. 母音が長く発音される場合	30
-----------------	----

§ 5. 2. 屈折形・派生形からみた母音の長さ	32
--------------------------	----

§ 5. 3. 母音の長短によって意味に違いが生ずる語	34
-----------------------------	----

### III. 綴りと発音

§ 6. 母音字・子音字とそれぞれの発音	36
A. 母音字とその発音	36
(1) 硬母音を表わす母音字 <a, å, o, u> とその発音	36
(2) 軟母音を表わす母音字 <i, e, ä, ö, y> とその発音	39
B. 子音字とその発音	41
§ 7. 特に注意すべき綴り字の発音	56
§ 7. 1. まとめ：重要な綴り字結合とその発音	56
A. 母音字について	56
B. 子音字について	56
§ 7. 2. 異形同音異義語	57
§ 8. 口語における発音上の特徴	60
A. 発音されない場合	60
B. 発音が変わってしまう語	62
§ 9. 特に注意すべき綴り <m> と <n> について	64
A. <m> と <n> が重ねられる場合	64
B. 重子音字 <mm>, <nn> の各1字が脱落する場合	65
スウェーデン語 音声記号 (IPA)	67
参考文献	68

# I. 文字

## § 1. アルファベット (alfabet)

スウェーデン語のアルファベットは次の 29 文字からなる。

大文字	小文字	発音記号	大文字	小文字	発音記号
A	a	[ɑ:]	O	o	[u:]
B	b	[be:]	P	p	[pe:]
C	c	[se:]	Q	q	[ku:]
D	d	[de:]	R	r	[æ:r]
E	e	[e:]	S	s	[es:]
F	f	[ef:]	T	t	[te:]
G	g	[ge:]	U	u	[u:]
H	h	[ho:]	V	v	[ve:]
I	i	[i:]	W	w	[ˈdøb:el   ve:]
J	j	[ji:]	X	x	[eks]
K	k	[ko:]	Y	y	[y:]
L	l	[el:]	Z	z	[ˈsɛ:ta]
M	m	[em:]	Å	å	[o:]
N	n	[en:]	Ä	ä	[ɛ:]
			Ö	ö	[ø:]

- (1) 以上 29 文字のうち、現代スウェーデン語では q, w, z の 3 文字は人名、地名や借入語に現れる。音価は q = [k], w = [v], z = [s] である。

Almqvist <アルムクヴィスト> (姓名), Wiksell <ヴィクセル> (姓名), Nya Zeeland <ニューージーランド>, zebra <しま馬>

- (2) w は辞書では v の後ではなく、v と同じ項 (見出し) に含まれて配置されている。
- (3) 母音字の上に記されたアクセント記号 ˘ は、主としてフランス語からの借入語や人名などに用いられ、その母音に強勢があり、

かつ長母音であることを示す。

armé〈軍隊〉, idé〈考え〉, Carl von Linné〈カール・フォン・リンネ〉  
(スウェーデンの植物学者 [1707-1778]) ; スウェーデン語の  
発音に忠実であるなら, リンネは当然リネーと発音される)

《参考》Å, å は北歐語 (スウェーデン語・デンマーク語・ノルウェー語) 独特の文字であるが, その起源は 15 世紀後半のスウェーデンに発している。1526 年に初めてスウェーデン語に翻訳された新約聖書を契機にこの文字の使用が広まった。古スウェーデン語の長母音 a と一部の短母音の a の音価が a と o の中間の音価に移行したため, a 表記の上に文字 o を合成・付加してこの音価に対応する文字を考案したものと考えられる。スウェーデンではこの文字は長い歴史を持つが, 隣国ノルウェーとデンマークがこの文字を正式に採用したのは, それぞれ 1917 年, 1948 年のことである。

なお, 大文字 Å は科学の分野で長さの補助単位 (オングストローム: 1 ミクロンの 1 万分の 1) として使われている。この記号はスウェーデンの物理学者 Anders Ångström [1814-1874] の姓名のイニシャルに由来している。

注意: スウェーデン語の発音表記は本国の学者によってもそれぞれ多少の違いがある。本稿では 1997 年に本国で出版された発音辞典 (Hedelin: 1997) と外大の学生たちによく用いられている小辞典 (菅原邦城・Claes Garlén 編: 1987) の発音表記を参考にして, 日本人学習者に分かりやすいように次のように多少の修正を加えたものを用いることにした (「まえがき」参照)。

- 1) 同一音節内において強勢のある母音の後に異なる子音が連続するとき従来の多くの表記の仕方は, たとえば kvist や halv を [kvɪst], [halv] のように記述していた。確かにこれらの子音連続の最初の子音 s や l は長子音で発音されているが, 表記上煩雑で余剰であることから, これら異なる子音の連続の場合には, [kvɪst], [halv] のように長音記号 [:] を省略することにした。Hedelin もこの表記を採り入れている。

2) 菅原邦城・Claes Garlén 編 (1987) は短母音の発音記号のうち次の 2 記号を使用しているが、本書は以下の記号を使用した。

[ɪ] → [i]      [ɔ] → [u]

また、Hedelin (1997) の表記と本書の表記とで異なるのは次の点である。その対応を以下に示す。

Hedelin		本書
[ɔ:]	:	[u:]
[ʊ]	:	[u]
[ɛ]	:	[e]
[ə]	:	[e]

なお、[ɛ], [ə] については § 2.1. の [e] の項を参照されたい。

## II. 発音

### § 2. 発音記号とその発音

まず、スウェーデン語で用いられる音を発音記号で示し、その発音の仕方を以下に記す。参考までに、スウェーデン語の各音に近い音を、日本語や他の外国語（英 [=英語]、独 [=ドイツ語]、仏 [=フランス語] とそれぞれ略す）から例を挙げて示すが、これはあくまでも近似の音であることは言うまでもない。なお、長音、強勢、語アクセント記号については以下の通り。

[:] は長音を示す。

['] は第1強勢がその直後の音節に置かれることを示すと同時に、その語が語アクセント1を持つことを示す（§ 3, § 4を参照）。

[˘] は第1強勢がその直後の音節に置かれることを示すと同時に、その語が語アクセント2を持つことを示す（§ 3, § 4を参照）。

[i] は第2強勢がその直後の音節に置かれることを示す（§ 4を参照）。

< > は欧文を包む場合は綴り字を示し、日本語を包む場合は当該語の日本語訳を示す。

V は母音を、C は子音を示す。

単音節語は語アクセント1をとるので、原則としてアクセント記号は省略する（§ 3, § 4を参照）。また、本書でただ単に強勢と言った場合は、第1強勢を意味することにする。

なお、各音の位置関係を体系的にとらえるために、次の§ 2.1., § 2.2.の説明は巻末の音声記号表(p. 67)を参照しながら通読されたい。

#### § 2.1. 母音の発音記号とその発音

[a:]: 唇をやや丸くし、舌の位置を低くして、口の奥から出す「オー」に近い「アー」（英 father; 仏 passe):

bra [bra:] <良い>, mat [ma:t] <食べ物>, tala ['ta:la] <話す>

[a]: ほぼ日本語の「ア」に相当する（英 cut より cat に近い; 独 Sache; 仏 salle). 上記の長母音の [a:] とは音質が異なること

に注意:

katt [kat:] <猫>, mamma ['mam:a] <お母さん>, tall [tal:] <松>

[o:]: 口をすぼめて、口の奥の方から出す「オー」(英 caught; 独 Sohn; 仏 chose):

båt [bo:t] <船>, nål [no:l] <針>, son [so:n] <息子>

[ɔ]: 上記の長母音 [o:] より、舌の位置をやや低くして発音する「オ」(英 cot; 独 Sonne; 仏 voler):

lång [lɔŋ:] <長い>, noll [nɔ:l] <ゼロ>, åtta ['ɔt:a] <8>

[u:]: 唇を十分すぼめて、舌の位置全体を高めにして発音する「ウー」に近い「オー」(英 moon; 独 Mut; 仏 tour):

bok [bu:k] <本>, mor [mu:r] <母>, stol [stu:l] <椅子>

[u]: 上記の長母音 [u:] よりは多少、唇の緊張が弱い「ウ」に近い「オ」(英 look; 独 kurz):

blomma ['blum:a] <花>, moster ['muster] <母方のおばさん>, ost [ust] <チーズ>

[u:]: 唇を丸めるが、とがらさずに口笛を吹くような形にして「イュー」と発音する(仏語の lui の u を長く発音した音に似ている)。下記の短母音 [ø] とは長さばかりでなく、音質も明らかに異なることに注意:

hus [hu:s] <家>, jul [ju:l] <クリスマス>, ut [u:t] <外へ>

注意: 強勢が置かれないうきに [u:] の短母音が現れる語がある。

[u]: gudinna [gu'din:a] <女神>, musik [mu'si:k] <音楽> studera [stu'de:ra] <勉強する>

[ø]: 唇は [u:] より緊張度は低いが、すぼめたまま「ウ」と発音する:  
buss [bøs:] <バス>, hund [hønd:] <犬>, rum [røm:] <部屋>

[i:]: 日本語の「イー」を発音するときよりも、唇をもっと左右に  
開いて発音する (英 seen; 独 Liebe; 仏 vire):  
bil [bi:l] <車>, rik [ri:k] <金持ちな>, vit [vi:t] <白い>

[i]: 上記の長母音 [i:] より多少、唇の緊張が緩んだ「イ」 (英 sin;  
独 finden):  
fisk [fisk] <魚>, smitta [ˈsmit:a] <感染させる>, vind [vind] <風>

[e:]: 日本語の「エー」よりも、唇を狭く平らにして発音する (独  
See):  
brev [bre:v] <手紙>, fet [fet] <肥えている>, leka [ˈle:ka] <遊ぶ>

[e]: 上記の [e:] よりも、やや唇を緩めた「エ」 (英 set; 独 Fest;  
仏 mettre):

eld [eld] <火>, hem [hem:] <家庭>, vecka [ˈvek:a] <週>,  
mätt [met:] <満腹の>, rätt [ret:] <正しい>, vägg [veg:] <壁>

注意: 強勢のない [e] は唇の緊張がやや緩み、多少あいまいな  
「エ」になる。この音に対して別の発音記号 [ə] をあてるこ  
ともあるが、本書では [e] を用いることにする。

cykel [ˈsyk:el] <自転車>, fönster [ˈfønster] <窓>, boken [ˈbu:ken]  
(bok <本> の単数既知形)

注意: スウェーデンの多くの地域で短母音の /e/ と下記に述べ  
る短母音 /ɛ/ とは中和され、その区別は失われている (ただ  
し、-r の直前の強勢のある e は除く)。中和された音は  
スウェーデン南部では [e], スtockホルムを中心とする他の  
地域では [ɛ], Vänern 湖周辺地域では [æ] になる傾向がある。

一方, [ɛ] を用いる地域でも語によっては [e] で発音されることもあり, その区別の条件が必ずしも明確ではないことから, ここでは [e] で記述することにする (Hedelin (1997) は中和されたこの音に対して, その条件を明記しないまま, 語によって2種の異なる発音表記を行なっている. ただ, <x> の前や3子音連続の前では [ɛ] に, 一方, 接頭辞 re- などの <e> は [e] になることが多いように思われるが, 詳しいことは不明である). この中和自体は標準スウェーデン語としても認められている. したがって, 以下の単語は綴りが相違していても (もちろん意味は異なるが), 発音は同じである.

[best]  
best <野獣>  
bäst <最良の>

['het:a]  
hetta <熱さ>  
hätta <頭巾>

[let:]  
lett (leda <導く> の完了分詞)  
lätt <容易な>

[set:]  
sett (se <見る> の完了分詞)  
sätt <方法>

一方, 長母音の /e:/ と /ɛ:/ はストックホルムやその周辺および一部の方言では中和されているものの, 全国的な規模での広がりには至っていないため, 長母音の /e:/ と /ɛ:/ は, 明確に区別して発音する必要がある.

[ɛ:]: [e:] を発音するときに, 横に狭めていた唇を少し上下に開いて発音する (音質的には 英 bed に近い; 独 Bär; 仏 mère):

räv [rɛ:v] <狐>, väg [vɛ:g] <道>, äta ['ɛ:ta] <食べる>

[e]: [ɛ:] の短母音であるが, 現代スウェーデン語では上述したように [e] と中和してしまった ([e] の項を参照).

[æ:]: [e:] よりも唇の開きが大きく、「アー」に近い「エー」:

bära ['bæ:ra] <運ぶ>, här [hæ:r] <ここに>, päron ['pæ:ron] <西洋梨>

注意: 長母音 [æ:] は、強勢のある <ä/e+r(+C)> の結合の際に生ずる。なお、C の種類については、先行する <r> とともにそり舌音を形成する子音 <d, l, n, t> (ただし、<t> については短母音 [æ] となる語もあり) である (§ 5.1.B. (3) ①②③④ および下記の [œ:] の項も参照)。

färd [fæ:d] <旅>, järn [jæ:n] <鉄>, modern [mu'dæ:n] <現代的な>, är [æ:r:] (vara <~である> の現在形。しかし通例、強勢は置かれず [æ(:), e(:), e(:)] と発音されることが多い)

[æ]: [æ:] の短母音 (英 apple):

berg [bærj] <山>, färg [færj] <色>, lärka ['lærka] <雲雀>

注意: 短母音 [æ] は、強勢のある <ä/e+r+C> の結合の際に生ずる(下記の [œ] の項も参照)。なお、C の種類については、上記の [æ:] の「注意」の場合とは逆に、<d, l, n> 以外の子音である。<t> については長母音になる語もある。

verk <作品> / värk <痛み> [værk] (同じ発音), ärm [ærm] <袖>, hjärta ['jæt:a] <心>, Sverige ['sværje] <スウェーデン> (文字 <i> は例外的に黙字となるため、発音の上では -er- の後に子音 [j] が続く)

[ø:]: 唇を [o:] を発音する構えにしておいて、[e:] の音を出す (独 schön; 仏 neutre):

bröd [brø:d] <パン>, snö [snø:] <雪>, öga ['ø:ga] <目>

[ø]: 上記 [ø:] の短母音で、発音の仕方は [o:] を発音する口の構えをしたまま、[e] の音を出す (独 Ökonomie; 仏 bleu):

dröm [drøm:] <夢>, höst [høst] <秋>, öppna ['øpna] <開ける>

[œ:]: 唇を [ɔ] を発音する状態にしておいて, [e:] を発音する  
(仏 *sœur*):

börd [bœ:d] <生まれ>, göra [ˈjœ:ra] <行う>, öra [ˈœ:ra] <耳>

注意: [œ:]/[œ] は, それぞれ [æ:]/[æ] の場合と同様, <r> との結合において生ずる. 長母音 [œ:] は強勢のある <ö+r(+C)> の結合において生ずる. Cの種類については, 先行する <r> とともにそり舌音を形成する子音 <d, l, n, t> (ただし, <t> については短母音 [œ] となる語もあり) である (§ 5. 1. B. (3) ① ②③④および上記の [æ:], [æ] の項も参照).

skörd [fjœ:d] <収穫>, björn [bjœ:n] <熊>, smör [smœ:r] <バター>

[œ]: [œ:] を発音する仕方と同じであるが, 短く発音する (独 *löschen*; 仏 *heurter*):

dörr [dœ:r] <ドア>, förr [fœ:r] <以前>, mörk [mœrk] <暗い>

注意: [œ:]/[œ] の音価は, それぞれ [æ:]/[æ] の場合と同様, <r> との結合において生ずる. 短母音 [œ] は, 強勢のある <ö+r(+C)> の結合のときに生ずる. Cの種類については, 上記の「注意」の場合とは逆に, 主として <d, l, n> 以外の子音である. なお, <t> については長母音になる語もある (上記の [æ:], [æ] の項も参照).

börja [ˈbœrja] <始める>, förr [fœ:r] <以前>, ört [œ:t] <ハーブ>

[y:]: 口を [u:] を発音するときのように十分すぼめたまま [i:] の音を出す (独 *über*; 仏 *mur*):

by [by:] <村>, dyr [dy:r] <高価な>, fyra [ˈfy:ra] <4>

[ʏ]: 唇を丸くすぼめて, [u] を発音する状態にして, [ɪ] を発音する (独 *Glück*):

nyckel [ˈnyk:el] <鍵>, rygg [ryg:] <背中>, syster [ˈsy:ster] <姉妹>

## 2 重母音:

方言は別として、標準スウェーデン語には借入語や人名、地名を除けば2重母音は現れない（なお、屈折・派生・合成語において母音が連続することはある）。

[au]: augusti [au'gesti] <8月>, paus [ˈpaus] <休止>;

August [ˈaugøst] <アウグスト> (男性名)

[eu]: Europa [euˈru:pa] <ヨーロッパ>

[œu]: neutral [neuˈtrɑ:l] <中立の>

## § 2.2. 子音の発音記号とその発音

### [p] [t] [k]

それぞれ英語の [p], [t], [k] に相当し、強勢を持つ音節の第一頭子音のときは、帯気を伴う。

[p]: pappa [ˈpɑ:pɑ] <お父さん>, kopp [kɔp:] <カップ>, språk [sprɔ:k] <言語>

[t]: tåg [to:g] <電車>, hatt [hat:] <帽子>, stanna [ˈstan:a] <止まる>

[k]: katt [kat:] <猫>, tack [tak:] <ありがとう>, skola [ˈsku:lɑ] <学校>

### [b] [d] [g]

それぞれ英語の [b], [d], [g] に相当し、帯気は伴わない。ただし、無声子音が隣接すると同化されて無声化することがある。

[b]: bank [baŋk] <銀行>, jobb [jɔb:] <仕事>, snabbt [snapt] <迅速に>

[d]: dag [da:g] <日>, bädda [ˈbed:a] <ベッドを整える>, onsdag [ˈunsta] <水曜日>

[g]: gata [ˈgɑ:ta] <通り>, ligga [ˈlɪg:a] <横たわる>, högt [høkt] (hög <高い>) の単数中性形/副詞)

### [f] [v]

それぞれ英語の [f], [v] に相当する。[v] は前または後に無声子音が隣接すると同化されて無声化することがある。

[f]: finna ['fin:a] <見出す>, skaffa ['skaf:a] <手に入れる>, kofta  
['kofta] <カーデガン>

[v]: vinna ['vin:a] <勝つ>, hav [hɑ:v] <海>, livsmedel ['lɪfs | me:del]  
<食料>

## [m] [n]

それぞれ英語の [m], [n] に相当する.

[m]: måla ['mo:la] <色を塗る>, samma ['sam:a] <同一の>, rum [røm:]  
<部屋>

[n]: namn [namn] <名前>, kvinna ['kvin:a] <女>, sten [ste:n] <石>

## [ŋ]

英語の long の ng の音に同じ. [ŋ] は語中と語末にしか現れない.

[ŋ]: lång [lɔŋ:] <長い>, många ['moŋ:a] <多くの>, bank [baŋk] <銀行>

## [h]

英語の [h] に同じ. 通例この音は強勢のある音節頭にしか現れない.

[h]: hatt [hat:] <帽子>, hoppas ['hɔp:as] <希望する>, höst [høst] <秋>

## [j]

英語の yes の y の音に同じ. 音節頭にも音節末にも現れる.

[j]: ja [ja:] <はい>, nej [nej:] <いいえ>, vilja ['vilja] <意志>

## [l] [r]

[l] は舌先を上の前歯の後ろに付けて発音する. いわゆる「明るい (clear) “l”」で, アメリカ英語の cool などの l に見られる「暗い (dark) “l”」にはならない. むしろ, フランス語の [l] に近い.

一方, スウェーデン語の [r] はイタリア語やロシア語などにもみられる巻き舌の r である. 下記の「そり舌音」形成の場合を除いては, スウェーデン語の r 音は語中・語末でも必ず発音される.

[l]: lag [la:g] <法律>, falla [ˈfal:a] <落ちる>, gul [gu:l] <黄色の>

[r]: råd [ro:d] <忠告>, torr [tor:] <乾いた>, stark [stark] <強い>

《参考》スウェーデン南部では、デンマーク語やドイツ語、フランス語などにみられるのどひこの r, いわゆる口蓋垂の [R]/[ʁ] が用いられるが、標準スウェーデン語は巻き舌の [r] である。

## [s]

英語の [s] に相当する。[z] の音はスウェーデン語には存在しない。

[s]: sak [sɑ:k] <物>, mössa [ˈmø:s:a] <帽子>, kust [køst] <海岸>

## [ç]

[ç] の発音の仕方は唇を [l] もしくは [j] を発音するときのように左右に開き、舌先は下前歯の後ろに触れずに、舌背を硬口蓋に向けて持ち上げ、その隙間から息を出す。その息が下前歯にあたり「チ」に似たかすれた感じの日本語の「シ」に近い音に聞こえる。しかし、下記の [ʃ] とは異なることに注意。この音はヴァリエントとして、「チ」に近い音価の [tç] で発音する方言もある。

[ç]: köpa [ˈçø:pa] <買う>, känna [ˈçen:a] <感じる>, tjuv [çw:v] <泥棒>

## [ʃ]/[ʃ]

[ʃ] は舌背を軟口蓋に向けて持ち上げ、狭い通路を形成し、そこから丸めた唇を通して息を出す。口の奥の方から出てくる日本語の「フー」に似た音であるが、ドイツ語やスペイン語の [x] ほどザラザラした感じはしない。この [ʃ] のヴァリエントとして、英語の sh の音に酷似した [ʃ] や [ʃ] もきわめてよく用いられる（下記 [d] [l] [n] [s] [t] の項参照）。

[ʃ]/[ʃ]/[ʃ]（これらの音は、一般に sje-音と呼ばれている）のどれを選択して学習してもよいが、一貫性を保つべきであることは言うまでもない。本書ではスウェーデン中央部や南部で広く使われ、しかも今後さらに広まる可能性の高い [ʃ] で代表させることにする

(なお、下記の「注意: sje-音を表す [ʃ]/[ʃ]/[ʃ] について」も参照).

[ʃ]/[ʃ]: skämt [ʃemt]/[ʃemt] <冗談>, sjuk [ʃu:k]/[ʃu:k] <病気の>,  
människa [ˈmen:ɪʃa]/[ˈmen:ɪʃa] <人間>

[d] [l] [n] [s] [t]

これらの音は通例、「そり舌音」(retroflex/supradentaler) と呼ばれ、語中・語末に現れる <-rd> [d], <-rl> [l], <-rn> [n], <-rs> [s], <-rt> [t] の子音結合の際に生ずる (ただし, [ʃ] については下記の「注意: sje-音を表す [ʃ]/[ʃ]/[ʃ] について」を参照)。

さらに、単語の中ばかりでなく文節中の語連続においても、<r> で終わる語にそれぞれ <d>, <l>, <n>, <s>, <t> で始まる語が続く際に、そり舌音が生ずる (§ 8. B. (3) 参照)。

これらのそり舌音を発音するには舌先を、歯音 [d] [l] [n] [s] [t] を発音するときよりもやや後ろの位置で、つまり巻き舌の [r] を発音する位置でこれらの歯音を調音する。

[d]: värde [ˈvæ:de] <価値>, hård [ho:d] <硬い>, ord [u:d] <単語>,  
Hur\_dags? [hʉ: ˈdaks] <何時に?>

[l]: pärla [ˈpæ:la] <真珠>, kärl [çæ:l] <容器>, ärlig [ˈæ:ɪg] <正直な>,  
Hur\_lång? [hʉ: ˈlɔŋ:] <どのくらい長いか?>

[n]: gärna [ˈjæ:nə] <喜んで>, barn [bɑ:n] <子供>, torn [tu:n] <塔>,  
Har\_ni\_det? [ˈha: nɪ de] <それをお持ちですか?>

[s]: färsk [fæ:ʃk] <新鮮な>, fors [fɔ:s] <急流>, mars [ma:s] <3月>,  
Hur\_står\_det\_till? [hʉ: ɪ ʃto: de ˈtɪl:] <ごきげんいかがですか?>,  
för\_sent [fœ: ˈʃent] <遅すぎる>

[t]: tårta [ˈto:tə] <ケーキ>, kort [kɔ:t] <短い>, snart [snɑ:t] <間もなく>,  
för\_tidigt [fœ ˈtɪdɪt] <早すぎる>

注意: sje-音を表す [ʃ]/[ʃ]/[ʃ] について

これら3つの音価のうち、日本人にとって [ʃ] と [ʃ] はきわめて類似して聞こえる。原則として [ʃ] は語頭に現れ、借入語や間投詞

などを除いては語末に現れることはまれである。一方, [ʂ] は語頭に  
来ることはほとんどなく, 語中・語末に現れるのが通例である。  
しかし, この相補的分布も中和する傾向にあり, 多くのスウェー  
デン人は両音を混同して用いている。また, [ʃ] と [ʂ] の選択につ  
いても地域的・社会的・個人的等さまざまな要素が絡み合っ  
て, 複雑な様相を呈している。Malmberg (1971:96f.) は次の4通りの用  
いられ方を示している。

- (1) 綴り <-rs> に対しては [ʂ] を, その他の sje-音はどの位置で  
も [ʃ] を用いる。
- (2) 綴り <-rs> に対しては [ʂ] (もしくは [r] を用いる地域では  
[r]+[s]) で発音されるが, その他の sje-音はどの位置でも [ʃ]  
を用いる。
- (3) 綴り <-rs> に対しては [ʂ] であるが, 強勢のある母音の前の  
sje-音は [ʃ], 強勢のある母音の後の sje-音は [ʂ] を用いる。
- (4) 綴り <-rs> に対してはもちろんのこと, すべての位置の sje-  
音にも [ʂ] を用いる。

なお, 本書では上で示したように (2) に基づいている。

《参考》 [ɕ] の音価も含め, これらの sje-音を扱った博士論文に Lindblad  
(1980) がある。カセットテープも付いており, 詳細な音声学的分析がなされて  
いる。

### § 3. 語アクセント (musikalisk ordaccent; tonaccent; melodi).

スウェーデン語には § 4 で述べる強勢 (tryckaccent; betoning) と並んで「語アクセント」がある。別名、高低アクセントもしくは音楽的アクセントとも言われ、それぞれの単語が持つメロディー、すなわち音調(トーンまたはイントネーション)を指す。この語アクセントがスウェーデン語に独特な音楽的な響きを与えている。この語アクセントには2種類あって、1つはアキュート・アクセントもしくはアクセント1 (akut accent; accent 1), もうひとつはグラヴ・アクセントまたはアクセント2 (grav accent; accent 2) と呼ばれている。本書ではアクセント1, アクセント2と呼ぶことにする。

スウェーデン語では語アクセントの違いによって、同一の綴り語であっても意味が異なってくるので注意しなくてはならない (§ 3.2. 参照)。また、各単語についても、屈折によって語アクセントが交替することがあり、文法的範疇によってはそれぞれどちらの語アクセントになるか定まっている (§ 3.1. 参照)。なお、第1強勢、第2強勢に関しては § 4 を参照。

#### アクセント1

音調は第1強勢のある音節で上昇した後、次の強勢のない音節に向かって下降調になる。このアクセント1を ['] で示す。

1音節語は常にこのアクセント1を持つが、2音節以上の語にも現れるので特に注意が必要である。

#### アクセント2

音調は第1強勢のある音節から一旦下降し、次の副強勢のある音節で再び素早く上昇した後、下降調になる。このアクセントには頂点が必ず2つある。このアクセント2を ['] で示す。方言によって音調のピッチの程度も多少異なるが、フィンランドのスウェーデン語はアクセント2を欠くため、1と2の対立はない。

アクセント2は2音節以上の語で初めて現れる。しかし、上でも

述べたように、多音節語であれば即アクセント2ではないことに注意されたい。

以上の語アクセントの音調を大まかに図示すると以下のようになる。

アクセント1  
s t e g e n



[ˈste:gen]

〈道；歩み〉

(ett steg の複数既知形)

アクセント2  
s t e g e n



[ˈste:gen]

〈はしご〉

(en stege の単数既知形)

### § 3.1. どの場合にアクセント1, アクセント2が現れるか

#### A. アクセント1が現れる場合

(1) 強勢を持つ単音節の語は常にアクセント1.

hus [ˈhʉ:s] 〈家〉, ny [ˈny:] 〈新しい〉, bo [ˈbu:] 〈住む〉

(2) 多音節語の場合.

① 弱強勢の -el, -en, -er で終わる多音節語.

-el: cykel [ˈsvk:el] 〈自転車〉, fågel [ˈfo:gel] 〈鳥〉

-en: tecken [ˈtek:en] 〈しるし〉, vatten [ˈvat:en] 〈水〉

-er: vacker [ˈvak:er] 〈美しい〉, vinter [ˈvɪnter] 〈冬〉

〔例外〕 himmel [ˈhim:el] 〈天空〉, nyckel [ˈnyk:el] 〈鍵〉,

spegel [ˈspe:gel] 〈鏡〉, naken [ˈna:ken] 〈裸の〉,

även [ˈe:ven] 〈～でさえ〉, papper [ˈpap:er] 〈紙〉 など.

② 名詞(未知形)がアクセント1であれば, その単数既知形は音節数が増えても同じアクセント1を保持する. 同様に母音で終わ

る第3曲用および第4曲用、第5曲用の名詞の複数既知形もアクセント1を保持する。

bilen ['bi:ɫen] (bil <車> の単数既知形),

tåget ['to:ɡet] (tåg <電車> の単数既知形),

korna ['ku:ŋa] (第3曲用 ko <牝牛> の複数既知形),

binna ['bi:na] (第4曲用 bi <蜜蜂> の複数既知形),

husen ['hʉ:sen] (第5曲用 hus <家> の複数既知形)

- ③ 複数形において語幹母音の変音 (omljud) を伴う第3曲用名詞の複数未知形および複数既知形。

böcker/böckerna ['bøk:er]/['bøk:erŋa]

(bok <本> の複数未知形/複数既知形),

bönder/bönderna ['bønder]/['bønderŋa]

(bonde ['bunde] <農民> の複数未知形/複数既知形),

fötter/fötterna ['føt:er]/['føt:erŋa]

(fot <足> の複数未知形/複数既知形),

händer/händerna ['hender]/['henderŋa]

(hand <手> の複数未知形/複数既知形)

[例外] döttrar/döttrarna ['døtrar]/['døtraŋa]

(dotter ['døt:er] <娘> の複数未知形/複数既知形),

söner/sönerna ['sø:ner]/['sø:nerŋa]

(son <息子> の複数未知形/複数既知形)

- ④ 形容詞・副詞において、語尾に -re をとる比較級および -erst をとる最上級。

-re: högre ['hø:ɡre] (hög <高い> の比較級),

yngre ['yŋre] (ung <若い> の比較級)

-erst: nederst ['ne:deʂt] <一番下の>

- ⑤ 現在形語尾 -er をとる動詞の第2活用および第4活用の現在形。しかし、これらの動詞の不定詞はアクセント2であることに注意 (下記 B. (2)⑤ a) 参照)。

läser ['le:ser] (第2活用 läsa ['le:sa] <読む> の現在形),

sover ['so:ver] (第4活用 sova ['so:va] <眠る> の現在形)

⑥ 強勢のない接頭辞 be-, för- で始まる動詞.

besluta [be'slʉ:ta] <決める> (比較: sluta ['slʉ:ta] <終わる>),  
förbjuda [fœr'bjʉ:da] <禁じる> (比較: bjuda ['bjʉ:da] <招待する>)

⑦ 不定詞が -era で終わる動詞.

promenera [prʉme'ne:ra] <散歩する>, citera [si'te:ra] <引用する>

⑧ 強勢のある接尾辞 -ant, -ent, -eri, -ion, -sion, -tion, -tet など  
で終わる語. これらは借入語である.

intressant [Intre'sant] <興味深い>, konsument [kɔnsu'ment]  
<消費者>, spioneri [sprʉne'ri:] <スパイ行為>, kollision [kɔli'fju:n]  
<衝突>, station [sta'fju:n] <駅>, universitet [œni | væʒi'tet] <大学>

⑨ -is で終わる名詞.

dågis ['dɑ:gis] <託児所>, skepsis ['skepsis] <懐疑>

⑩ 「～に携わる人」を意味する接尾辞 -iker で終わる名詞.

politiker [pu'li:tiker] <政治家>, fysiker ['fy:siker] <物理学者>

⑪ -(i)sk で終わる形容詞.

nordisk ['nu:dɪsk] <北歐の>, latinsk [la'ti:nsk] <ラテン語の>

⑫ すべての曜日名.

måndag ['mɔnda] <月曜日>, tisdag ['ti:sda] <火曜日>,  
onsdag ['unsda] <水曜日>, torsdag ['tu:ʒda] <木曜日>,  
fredag ['fre:da] <金曜日>, lördag ['lœ:dɑ] <土曜日>,  
söndag ['sœnda] <日曜日>

## B. アクセント 2 が現れる場合

(1) 一般に強勢が第 1 音節にある多音節語 (§ 4. 1. 《参考》の表を参照).

blomma ['blʉma] <花>, lärare ['læ:rare] <教師>, gammal ['gam:al]  
<古い, 老いた>

〔例外〕 tusen ['tu:sen] <1, 000> ; cykel ['syk:el] <自転車>, vatten  
['vat:en] <水>, vinter ['vɪnter] <冬> など (§ 3. 1. A. (2) ①参照)

注意：強勢が第1音節に置かれなくてもアクセント2が現れる語がある。

prinsessa [prɪn'ses:a] <王女>, emellan [e'mel:an] <～の間>,  
ehuru [e'huru] <たとえ～でも>

(2) 屈折によってアクセント2を得る場合.

① 複数形語尾に -ar, -or, -er をとる多くの名詞の複数未知形および複数既知形.

bilar/bilarna ['bi:lar]/['bi:lan̩a] (bil <車> の複数未知形/複数既知形),  
rosor/rosorna ['ru:sʊr]/['ru:sun̩a] (ros <バラ> の複数未知形/複数既知形),

katter/katterna ['kat:er]/['kat:en̩a] (katt <猫> の複数未知形/複数既知形)

[例外] pengär/pengarna ['peŋ:ar]/['peŋ:an̩a] <お金>

(複数未知形/複数既知形; 通例, 単数形では使われない)

② 単音節の形容詞が複数形および既知形になるとき.

godä ['gu:da] (god <良い> の複数形/既知形)

glada ['glä:da] (glad <嬉しい> の複数形/既知形)

unga ['eŋ:a] (ung <若い> の複数形/既知形)

③ 形容詞・副詞の比較級・最上級が -are, -ast をとるとき.

比較級

最上級

原級

finare ['fi:nare]

finast ['fi:nast]

(fin <素敵な>)

rikare ['ri:kare]

rikast ['ri:kast]

(rik <金持ちの>)

④ 第3活用動詞の過去形.

betedde [be'ted:e] (bete <ふるまう>)

sydde ['syd:e] (sy <縫う>)

⑤ 以下のグループの動詞. ただし, 接頭辞 be-, för- などで始まる動詞および不定詞が -era で終わる動詞は除く.

a) 第2活用の動詞の不定詞と過去形.

läsa ['lɛ:sa] <読む> (不定詞), läste ['lɛ:ste] (過去形)

- b) -a で終わる 2 音節以上の第 4 活用の動詞の不定詞と完了分詞。  
skriva ['skri:va] <書く> (不定詞), skrivit ['skri:vɪt] (完了分詞)

注意: 第 2 活用, 第 4 活用動詞の現在形はアクセント 1 をとる  
(上記 A. (2)⑤参照).

läser ['lɛ:sɛr], skriver ['skri:ver]

- c) 第 1 活用動詞は全活用形でアクセント 2 が現れる.

不定詞/命令形 現在形 過去形 完了分詞 過去分詞 現在分詞  
kalla ['kal:a] <呼ぶ> kallar kallade kallat kallad kallande

- ⑥ 強勢のある接頭辞 an-, av-, miss-, om-, till-, under-, ut-, åter-,  
över- などを持つ語.

anfall ['an: | fal:] <攻撃>, avgå ['ɑ:v | go:] <退く>, missbruk

['mɪs: | brʉ:k] <悪用>, omväg ['ɔm: | ve:g] <回り道>,

tillstånd ['tɪl: | stɔnd] <状態>, undersöka ['ɛnde | sɔ:kɑ] <調べる>,

uttala ['ʉ:t | tɑ:lɑ] <発音する>, återvända ['o:ter | venda] <戻る>,

överdrift ['ø:ve | dʀɪft] <誇張>

- ⑦ 接尾辞 -aktig, -are, -bar, -dom, -faldig, -full, -het, -ing, -ning,  
-lek, -lig, -lös, -or, -sam, -skap など終わる語.

brunaktig ['brʉ:n | aktɪg] <茶色っぽい>, bagare ['ba:gare] <パン屋>,

drickbar ['dri:k | ba:r] <飲むことのできる>, ungdom ['ɔŋ: | dum:]

<青年時代>, enfaldig ['e:n | faldɪg] <愚かな>, värdefull ['væ:de | fɛl:]

<価値のある>, skönhet ['ʃjø:n | het] <美しさ>, tävling ['tɛ:vlɪŋ]

<競争>, tidning ['ti:dniŋ] <新聞>, kärlek ['çæ: | e:k] <愛>,

vänlig ['venlɪg]/['ve:nlɪg] <親切な>, hopplös ['hɔp: | lɔ:s] <絶望的な>,

doktor ['dɔktor] <医師>, lönsam ['lɔ:n | sam:] <利益のある>,

kunskap ['køn: | ska:p] <知識>

### (3) 合成語

一般に合成語にはアクセント 2 が現れる. 合成語の構成要素つまり元の単語がアクセント 1 どうしであっても, 形成される合成語はアクセント 2 を示す. 通例アクセント 1 を持つ単語がアクセント 2

に変化した場合、次に何らかの合成語要素が後続するということが予想される。アクセント2はこのように語を結びつける連結的機能も有している。そのためこの機能を持つアクセント2は特に「合成語アクセント」(sammansättningsaccent)と呼ばれている。

sjuk|hus [ˈɧu:k | hu:s] <病院> (sjuk も hus も元来はアクセント1)

ord|bok [ˈu:d | bu:k] <辞書> (ord も bok も元来はアクセント1)

student|hem [stuˈdent | hem:] <学生寮>

(student も hem も元来はアクセント1)

över|läkare [ˈø:ve | [e:kare] <主任医師>

(元来 över はアクセント1, läkare はアクセント2)

tidnings|man [ˈti:dniŋs | man:] <新聞配達人>

(元来 tidning はアクセント2, man はアクセント1)

fastighets|mäklare [ˈfastiŋhe:ts | me:klare] <不動産業者>

(元来 fastighet はアクセント2, mäklare もアクセント2)

[例外] 以下の合成語はアクセント1をとることから、もはや合成語というよりは単一語 (enkla ord) と考えられる。

a) 上記 A. (2). ⑫の曜日名。

b) -son, -man で終わる姓: Jonsson, Nyman.

c) その他。

skridskor [ˈskri:skur] <スケート靴>, trädgård [ˈtrɛ:ɡɑ:d] <庭園>,

blåbär [ˈblo:bær] <ブルーベリー>, körsbär [ˈçø:ɕbær] <さくらんぼ>

(-bär で終わる木の実の名は、通例アクセント1を持つ)

### § 3.2. アクセント1, アクセント2によって意味が異なる語

アクセント1	アクセント2
allting <すべて>	: <アイスランドの議会>
anden <野鴨> (en and の単数 既知形)	: <魂> (en ande の単数 既知形)

biten <ひとかけら> (en bit の 単数既知形)	: <噛まれた> (bita <噛む> の過去分詞)
brunnen <井戸> (en brunn の単数 既知形)	: <燃えた> (brinna <燃える> 過去分詞)
buren <檻> (en bur の単数既知形)	: <運ばれた> (bära <運ぶ> の 過去分詞)
eder <あなた(たち)の>	: <誓い> (en ed の複数形)
giftet <毒> (ett gift の単数既知形)	: <結婚> (ett gifte の単数既知 形)
gången <通路> (en gång の単数 既知形)	: (gå <歩く> の過去分詞)
i stället <置き場所にて> (ett ställ の単数既知形)	: <そのかわりに>
regel <規則>	: <かんぬき, 差し錠>
skallen <吠える声> (ett skall の 複数既知形)	: <頭蓋骨> (en skalle の単数 既知形)
skeden <スプーン> (en sked の 単数既知形)	: <時期> (ett skede の複数 未知形)
skuren <にわか雨> (en skur の単数 既知形)	: <切られた> (skära <切る> の 過去分詞)
slutet <終わり> (ett slut の単数 既知形)	: <閉じられた> (sluta <閉じる> の過去分詞)
stegen <歩み> (ett steg の複数 既知形)	: <はしご> (en stega の単数 既知形)
tanken <タンク> (en tank の単数 既知形)	: <思考> (en tanke の単数 既知形)
tomten <土地> (en tomt の単数 既知形)	: <小人> (en tomte の単数 既知形)
vaken <氷上の穴> (en vak の単数 既知形)	: <目が覚めている>

värden <ホスト> (en värd の単数 既知形) : <価値> (ett värde の複数 未知形)  
[po:len]: Polen <ポーランド> : pålen <杭> (en påle の単数 既知形)

《参考》Håkansson & Stenquist (1989:37) によると、このように語アクセントで対立する語がスウェーデン語におよそ 500 対も存在するといわれている。しかし、実際には相互に意味が掛け離れているため、会話での意思疎通に問題をきたすことはさほど多くない。

また、地域的・社会的・個人的な差などによって、下に挙げるようにいくつかの普通名詞や固有名詞でアクセント 1 と 2 に揺れがある。

普通名詞: album <アルバム>, gratis <無料で>, lakan <シーツ>,  
saker <もの> (sak の複数形), verkstad <工場> など。

名前: Bertil, Erik, Olof.

姓名: Lindberg.

地名: Leksand, Halmstad.

#### § 4. 強勢 (強さアクセント) (tryckaccent; betoning)

強勢が置かれる音節は強く発音される。最も強く発音される場合を第1強勢 (huvudtryck) と呼び、これよりも弱く発音される強勢は、その強さによって3もしくは4段階に細分されることもある。本書では第1強勢以外の強勢は副強勢 (bitryck) として扱い、必要に応じて副強勢の中で1番強く発音される第2強勢 (starkt bitryck) までを示すことにする。強勢は前述の§3の語アクセントと深くかかわりがあり、語アクセント1、語アクセント2は同時に第1強勢も持っていることを意味している。したがって、語アクセントの表記 ['] や [ː] は、それぞれこの表記が付加されている直後の音節に第1強勢があることも示している。また第2強勢は [ˑ] で表わし、その直後の音節に第2強勢があることを示している。なお、以後、特に断らない限り、強勢は第1強勢のことを指すものとする。

また、スウェーデン語では英語と違って、強勢のない音節の母音も子音も明瞭に発音されることに注意されたい。

##### § 4.1. 強勢の位置

原則として、強勢は語の第1音節にあるが、借入語（主として、ギリシア・ラテン語起源）は第1音節より後ろにあるものが多い。

(1) 大部分のスウェーデン語本来の語は第1音節に強勢を持つ。

vacker ['vak:er] <美しい>, hundarna ['høndaŋa] <その犬(複数)>, ordbok ['u:ɖ̥ | bu:k] <辞書>

(2) be-, för-, ge- の接頭辞で始まる語は、その接頭辞直後の音節に強勢がある。

betala [be'ta:la] <支払う>, försöka [fœ'ʂø:ka] <試みる>, gemensam [je'me:n | sam:] <共通の>

ただし、för- が「前、直前」を意味するときや、för- を含む語が4音節である場合には、しばしば第1音節に強勢がある。

förmiddag ['fœ:r | mɪd:ag] <午前>, försommar ['fœ: | ʂom:ar] <初夏>  
förolämpa ['fœ:ru | lempa] <侮辱する>



## § 4.2. 強勢の位置と意味の関係

### A. 強勢の位置によって意味が異なる語

ここでは強勢の位置が分かりやすいように、強勢の置かれる母音字を太字で示すことにする。

#### (1) 単語において

banan <その路線> (bana の既知形)	: banan <バナナ>
Japan <日本国>	: japan <日本人男性>
tekniker <技術者>	: tekniker <テクニク> (teknik の複数形)

#### (2) 動詞句において

[動詞+前置詞]	[動詞+小辞]
hälsa på <挨拶する>	: hälsa på <訪問する>
läsa om <~について読む>	: läsa om <読み直す>
köra över <~を経由して運転する>	: köra över <(車で人を) ひく>

《参考》強勢が小辞 (partikel) にある [動詞+小辞] の意味は、その動詞が通例持っている意味から多少特殊化したり、また逸脱する傾向がある。練習問題を付して、この [動詞+小辞] の意味を簡潔にまとめたものに次の著作がある。

Anders Bodegård. 1985. *TÄNK EFTER*. Stockholm: Skriptor Förlag.

Hans Holmgren Ordning. 1998. *Se upp! Svenska partikelverb*. Stockholm: Natur och Kultur.

小辞については以下の研究書がある。

Kerstin Norén. 1996. *Svenska partikelverbs semantik*. Nordistica Gothoburgensia, nr 17. Göteborg: Göteborgs universitet.

### B. 単数形/複数形によって強勢が移動する語

同一語において、単数形/複数形によって強勢の位置が移動し、同時に母音の長短や語アクセントも変わる語がある。主として -or で終わる借入語の名詞が複数形になるときに生ずる。

単数形	複数形
dator <コンピュータ> [ˈda:tɔr]	: datorer [da'tu:rer]
motor <エンジン> [ˈmu:tɔr]	: motorer [mu'tu:rer]
professor <教授> [pru'fes:ɔr]	: professorer [prufe'su:rer]
konsul <領事> [ˈkɔnsəl]	: konsul <span>er</span> [kɔn'su:ler]

### C. スウェーデン人の男女の名前（複合名）の強勢の位置

スウェーデン人の中には名前 (förnamn) として、ハイフンで結ばれた複合名 (dubbelnamn) を持つ人が少なくない。このタイプの名前は呼び掛けの際にも、どちらか一方を省略することなく、両方ともに発音される。

一般に男性名は後半の名に、女性名は前半の名に強勢が置かれる。

男性名: **Karl-Erik**, **Bengt-Göran**

女性名: **Ann-Marie**, **Gun-Britt**

《参考》この違いについては次の論文で指摘されている。

Sigurd Fries. 1973. "Carl Ivar och Anna-Greta. Några synpunkter på tryckfördelningen i de sammansatta personnamnen", *Svenska studier från runtill till tid tillägnade Carl Ivar Ståhle på 60-årsdagen den 27 juni 1973*, 75-84. Stockholm: Nämnden för svensk språkvård.

### § 4.3. 発話・文中における強勢 (satsbetoning)

一般に、発話・文中において情報度の高い内容を持つ語や重要な語には強勢が置かれ、その語は他の語に比べて強く、明瞭に発音される。強勢が置かれる品詞と強勢が置かれない品詞はその情報度の度合いによって原則的に以下のように分類できる。しかし、それぞれの発話における機能などにより (1) の分類の品詞が (2) になっ

たり、あるいはその逆が生じることは言うまでもない。

(1) 通例，発話・文中において強勢が置かれる品詞：

名詞，形容詞，動詞，動詞句中の小辞，(様態・時・場所の) 副詞，  
数詞，固有名詞，間投詞など。

(2) これに対して弱強勢となる品詞：

不定冠詞，助動詞，接続詞，前置詞，代名詞 (指示代名詞は除く)，  
ju <ご存知のように>，nog <多分>，väl <ひよっとしたら> などの  
文副詞および否定辞など。

例として，発話・文中において強勢の置かれる語を下線を付して  
示す。

Berit simmar. <ベリットは泳ぐ>

Erik vill inte simma här. <エーリックはここでは泳ぎたくない>

Han tycker om Ingrid. <彼はイングリッドが好きだ>

Hon är en vacker flicka. <彼女は美しい女の子だ>

Jag sitter och väntar på ett tåg till Stockholm. <私はストックホルム  
行きの電車を (座って) 待っているところだ>

## § 5. 母音の長短

スウェーデン語の母音字は9個 (a, o, å, u, i, e, ä, ö, y) あり、それぞれに長い母音、短い母音を表わす。母音の長短によって、単に音の長さばかりでなく、音質もかなり異なってくる母音 (a, u) もあるので注意を要する。母音の発音は、例えば e の場合、短母音であれば [e], 長母音であれば [e:] と表記される。子音にも長短があり、その表記の仕方は母音のそれに準ずる。例えば短子音の t は [t], 長子音 (重子音) では [t:] と表記される。子音に関しては、重ね綴りのときに長子音で発音される。その長子音のうちいくつかは、日本語の促音と同じように発音される。説明の便宜上、母音を V、子音を C として表記する。

スウェーデン語の発音の仕方の原則は、一般に母音、子音の長短に注意を払いながら、いわゆるローマ字読みに発音する。

### § 5.1. 母音の長短を区別する原則

スウェーデン語の母音の長短は一般にその直後に続く子音の数によって決まる。スウェーデン語は母音の長短によって語の意味が異なってくるため、長短の原則を正確に修得する必要がある。

#### A. 母音が短く発音される場合

- (1) 強勢のある音節が [V+CC(C)] の構成をとるとき。つまり、強勢を持つ母音の直後に子音が2個以上連続するとき。CCは必ずしも同一子音とは限らない。もちろん、Vの前に子音が現れることもあるが、これは後続母音の長さに関係しない。

katt [kat:] <猫>, packa ['pak:a] <詰める>, lax [laks] <鮭>,  
svenskt [svenskt] <スウェーデンの>, kvist [kvist] <枝>

- (2) 弱強勢もしくは強勢のない音節中にある母音。しかし強勢がなくても、その母音は明瞭に発音されることに注意。

hata ['ha:ta] <憎む>, matta ['mat:a] <じゅうたん>, pojke ['pojke]  
<少年>

(3) 強勢のある音節が [V+C] の構成で、綴りも <V+C> の構成でありながらも、C が次のような子音の場合、母音は短く発音されることが多い。

① [V+m] のとき (§ 9 参照)。

rum [røm:] <部屋>, hem [hem:] <家(へ)>, döma ['døm:a] <裁く>

注意: 原則通り母音が長く発音される語もある。

bekväm [be'kvæ:m] <快適な>, problem [pru'ble:m] <問題>, dam [da:m] <婦人>

② [V+n] のとき (§ 9 参照)。

man [man:] <男>, vän [ven:] <友人>, igen [i'jen:] <再び>

注意: 原則通り母音が長く発音される場合も多い。

fin [fi:n] <素敵な>, sten [ste:n] <石> など。

③ [V+j] のとき。

hej [hej:] <こんにちは>, maj [maj:] <5月>

④ 綴りの上では <V+C> であるが、発音の上では [V+CC]。

cykel ['syk:el] <自転車>, frukost ['frøk:öst] <朝食>, hade ['had:e] <持っていた> (ha の過去形), kapitel [ka'pitel] <章>

## B. 母音が長く発音される場合

(1) 強勢のある音節が母音で終わるとき, [-V:]。

bi [bi:] <蜜蜂>, bestå [be'sto:] <成る>, ta [ta:] <取る>

(2) 強勢のある音節の母音に子音が1個続くとき, [V:+C]。

mat [mɑ:t] <食べ物>, påse ['po:se] <袋>, betyda [be'ty:da] <意味する>

(3) 綴りが <V+CC> の構成でありながらも、その CC が次のような子音の結合の場合、母音は長く発音される。

① <rd> のとき

bord [bu:rd] <テーブル>, gård [go:rd] <屋敷>, värd [væ:rd] <～に値する; ホスト>

② <rl> のとき

pärla ['pæ:la] <真珠>, sorl [so:l] <つぶやき>, ärlig ['æ:li:g] <正直な>

③ <m> のとき.

barn [ba:n] <子供>, järn [jæ:n] <鉄>, varna ['va:nə] <警告する>

④ <rt> のとき.

fart [fa:t] <速さ>, karta ['ka:tə] <地図>, tårta ['to:tə] <ケーキ>

注意: 原則通り母音が短く発音される語も多い.

svårt [sva:t] <黒い>, ört [œ:t] <ハーブ>, kort [kot:] <短い>

また, 母音の長短に揺れがある語もある.

skjorta ['fju:tə] / ['fju:tə] <シャツ>, start [stat:] / [sta:t] <スタート>

《参考》これらのそり舌音の前の母音の長短については, 清水 (1996) を参照.

⑤ <b, d, g, p, v, r> + <l> のとき (なお, <rl> については上記②を参照).

odla ['u:dlə] <耕す>, segla ['se:glə] <航海する>, stapla ['sta:plə]

<積み上げる>, tavla ['ta:vla] <絵画>

⑥ <b, d, g, k, p, v> + <r> + <a/e> のとき.

segra ['se:grə] <勝つ>, knapra ['kna:prə] <ぱりぱりかじる>,

erövra ['e:r | ø:vra] <征服する>, havre ['ha:vre] <カラス麦>

⑦ <dj> + <a/e>, <vj> + <a> のとき.

kedja ['çe:djə] <鎖>, glädje ['gle:dje] <喜び>, stävja ['ste:vjə] <抑制する>

⑧ <C> + <n> + <a/e> のとき. ただし, <C> がそれぞれ <j, m, n> であるときは除く.

rodna ['ro:dna] <赤くなる>, sakna ['sa:kna] <欠く>, fräknar

['fræ:knar] <そばかす> (通例複数形で用いられる)

⑨ その他.

möln [mo:ln] / [mø:ln] <雲> (短母音で発音されることもしばしばある),

värld [væ:d] <世界> (文字 <l> は発音されず, 上記①の värd と

同じ発音になる. ちなみに, <男> の意味での karl [ka:r] も <l>

は発音されない)

(4) 綴りは <V+CC> でありながら, その綴り内部に合成語の切れ目 (その境界を | で示す) があるとき. つまり <V|CC> もしく

は <VC|C> であれば, 上記 B の(1), (2)と同じになり, 母音は当然長く発音される.

botstad [ˈbu: | sta:d] <住居> (合成語 bo|stad),

matbord [ˈmɑ:t | bu:d] <食卓> (合成語 mat|bord)

(5) 第2強勢の母音が長母音もしくは半長母音で発音される場合.

villkor [ˈvɪl: | ko:r] <条件>, passiv [ˈpas: | i:v] <消極的な> など.

## § 5.2. 屈折形・派生形における母音の長さ

屈折あるいは派生によって, 長母音に続く子音字が <V> → <V+n> もしくは <V+C> → <V+CC(C)> のように増加したとき, その母音の長短については, 次の3通りがある (なお, <n> に関しては § 5.1. A. (3)②参照):

- (1) 短母音化: <V> → <V+n>, <V+C> → <V+CC(C)> に変わる  
ことにより, 母音も短くなる場合.
- (2) 長母音保持: <V+CC(C)> となりながらも, 元の長母音を保持  
する場合.
- (3) 長・短母音併存: <V+CC(C)> となっても, 長短どちらの母音  
でも通用する場合.

	(1) 短母音化	(2) 長母音保持	(3) 長・短母音併存
屈折			
名詞			
単数形→複数形	nöt → nötter	fågel → fåglar	
未知形→既知形	sjö → sjön	fru → frun	
基本形→属格形	dag → dags	tid → tids	stat → stats

	(1) 短母音化	(2) 長母音保持	(3) 長・短母音併存
形容詞			
共性形→中性形	vit → vitt	fín → fint	
単数形→複数形 /既知形		mogen → mogna	
原級→比較級		hög → högre	
原級→最上級	hög → högst	låg → lägst	
動詞			
(s-受動態) 不定詞→現在形		skrivās → skrivs rivās → rivs (下の【注】参照)	
(デポーネンス) 不定詞→現在形	rivās → rivs (下の【注】参照)		
不定詞→過去形 /完了分詞	bo → bodde/ bott	läsa → läste/läst	köpa→köpte/köpt
過去分詞 単数形→複数形 /既知形		skrivēn → skrivna	
派生		person → personlig	
		vit → vitna	

なお、短母音化が生じる際、母音の音質も変わることに注意：

dag [dɑ:g] → dags [daks], gud [gʊ:d] → guds- [gøts-]

【注】 rivas の現在形 rivs は母音の長短によって意味の違いがある。長母音であれば、riva〈引き裂く〉の s-受動態 rivas〈引き裂かれる〉の現在形、短母音であればデポーネンス (deponens) の rivas〈引っ搔く(習性がある)〉の現在形である。

長母音, s-受動態 : Huset rivs. 〈家が取り壊される〉

短母音, デポーネンス : Katten rivs. 〈猫は引っ搔く(習性がある)〉

他にも同様な動詞がある (矢印の左側は不定詞, 右側は現在形).

bitas → bits

長母音保持, s-受動態 : 〈噛まれる〉

短母音化, デポーネンス : 〈噛む(習性がある)〉

slåss, slås については, 母音の長短が子音の綴りに反映されている。

slås → slås 長母音, s-受動態 : 〈殴られる〉

slåss → slåss 短母音, デポーネンス : 〈格闘する〉

さらに, 綴りが同じで意味が異なる例。短母音が副詞に現れることに注意 (§ 5.3. (2) 参照)。

förstås [fœ'ʂto:s] 長母音, s-受動態現在形 : 〈理解される〉

förstås [fœ'ʂtɔ:s] 短母音, 副詞 : 〈もちろん〉

表中の語の意味:

nöt 〈クルミ〉, fågel 〈鳥〉, sjö 〈海 ; 湖〉, fru 〈夫人〉, dag 〈日〉, tid 〈時間〉, stat 〈国家〉, vit 〈白い〉, fin 〈素敵な〉, mogen 〈熟した〉, hög 〈高い〉, låg 〈低い〉, bo 〈住む〉, läsa 〈読む〉, köpa 〈買う〉, skrivnas 〈書かれる〉, person 〈人〉, personlig 〈個人的な〉, vitna 〈白くなる〉, gud 〈神〉.

(この他にもまだ数多くある。上の表の空白はさらに埋められる可能性があることを付け加えておく)

### § 5.3. 母音の長短によって意味に違いが生ずる語

- (1) 短母音か長母音かによって意味が異なる語。母音字に後続する子音字が単一綴りか重ね綴りかにも注意。

長母音	短母音
bred <広い>	: bredd <広さ、幅>
dam <女性>	: damm <ほこり；池>
fin <素敵な>	: finn (finna <見出す> の命令形)
ful <醜い>	: full <満ちた；一杯の>
glas <コップ>	: glass <アイスクリーム>
gran <もみの木>	: grann <美しい>
kapa <ハイジャックする>	: kappa <(女性用の)コート>
slås <殴られる>	: slåss <格闘する>
tak <屋根>	: tack <ありがとう>
väg <道>	: vägg <壁>

(2) 同じ綴りでありながら、母音の長短によって意味が異なる語 (§ 5. 1. A. (3)②を参照).

長母音	短母音
man <(馬などの)たてがみ>	: <人；男>
men <危害>	: <しかし>
min <表情>	: <私の>
förstås <理解される>	: <もちろん>
svans (svan <白鳥> の属格)	: <尻尾>
svalt (sval <涼しい> の	: (svälta <飢える> の過去形)
中性形/副詞；§ 5. 2. の表参照)	

### III. 綴りと発音

#### § 6. 母音字・子音字とそれぞれの発音

スウェーデン語の綴り字と発音は比較的によく一致しているが、それでもいくつかの規則を習得する必要がある。それぞれの綴り字はどのように発音されるかを以下に示す。

#### A. 母音字とその発音

スウェーデン語の母音字は全部で9個あるが、それによって表わされる母音は調音される位置によって前舌母音と後舌母音に分類される。前舌母音に相当する母音は <i, e, ä, ö, y> の5文字で表わされ、後舌母音に相当する母音はそれぞれ <a, å, o, u> の4文字で表わされる。スウェーデン語文法では、前舌母音を軟母音 (mjuka vokaler)、後舌母音を硬母音 (hårda vokaler) と呼んでいる。

特に子音字 (<g->, <k->, <sk-> など) の後に続く母音字が軟母音か硬母音かによって、同じ子音字が全く異なって発音されるので、軟母音・硬母音の区別はきわめて大切である。なお、長母音・短母音の区別の仕方は § 5 参照。

#### (I) 硬母音を表わす母音字 <a, å, o, u> とその発音

##### <a>

<a> で表わされる母音の長短 [ɑ:]/[ɑ] は下述の [u:]/[u] と同様に、単に長さの違いばかりでなく、質的にも大きく異なるので注意を要する。

##### ① [ɑ:]

dag [da:g] <日>, gata ['gɑ:ta] <通り>, hav [hɑ:v] <海>

##### ② [ɑ]

natt [nat:] <夜>, stanna ['stan:a] <止まる>, flicka ['flik:a] <少女>

注意：不定詞のマーカーである att [at:] は、日常の話言葉では、しばしば [ɑ] と発音される。しかし、接続詞としての att は常に [at:] と発音されることに注意 (§ 8. B. (2) 参照)。

<â>

① [o:]

blå [blo:] <青い>, låsa [ˈlo:sa] <鍵をかける>, tåg [to:g] <電車>

② [ɔ:]

påsk [pɔ:sk] <復活祭>, råtta [ˈrɔ:t:a] <ねずみ>, sång [sɔŋ:] <歌>

<o>

綴り字 <o> には [u:]/[u] の音の他に、<o> の文字でありながら、<â> の文字の持つ音価 [o:]/[ɔ] と同じになる語が多数ある。

① [u:]

bok [bu:k] <本>, god [gu:d] <良い>, otur [ˈu: tɔ:r] <不運>

② [u]

hon [hʊn:] <彼女>, orm [ɔrm] <蛇>, tom [tʊm:] <からの>

③ [o:]

honung [ˈho:nɔŋ] <蜂蜜>, son [so:n] <息子>, sova [ˈso:va] <眠る>

④ [ɔ]

folk [fɔlk] <人々>, komma [ˈkɔm:a] <来る>, sommar [ˈsɔm:ar] <夏>

注意：文字 <o> を [u:]/[u] で発音するのかそれとも [o:]/[ɔ] (= <â> の文字の音価) で発音するのかを区別する規則は残念ながらない。したがって1語1語チェックするしか方法はないが、借入語は [o:]/[ɔ] で発音される傾向が見られる。

[o:]

atom [aˈto:m] <原子>, dialog [diaˈlo:g] <対話>, telefon [teleˈfo:n] <電話>

[ɔ]

konflikt [kɔnˈflikt] <争い>, kontakt [kɔnˈtakt] <接触>, soffa [ˈsof:a] <ソファ>

注意：文字 <o> が、<â> の持つ音価 [o:]/[ɔ] で発音されることにより生ずる、いわゆる異形同音異義語 (homofon) と同形異音異義語 (homograf) を以下に挙げる。

異形同音異義語

[o:]

文字 <o>	文字 <â>
hov <王室>	: hâv <網袋>
kol <石炭>	: kâl <キャベツ>

[ɔ]

文字 <o>	文字 <â>
blott <...のみ>	: blått (blå <青い> の単数中性形)
gott (god <良い> の 単数中性形)	: gått (gå <歩く> の完了分詞)
order <命令>	: årder <鋤の一種>

同形異音異義語

[o:]

[u:]

bor : <ホウ素>	: (bo <住む> の現在形)
hov : <王室>	: <蹄>

[ɔ]

[v]

bort : <むこうへ>	: (böra <～すべきである> の完了分詞)
fort : <砦>	: <速く>
kort : <短い>	: <カード>

<u>

<u> で表わされる母音の長短 [u:]/[ø] は [ɑ:]/[a] と並んで、単に長さの違いばかりでなく、質的にも大きく異なるので注意を要する。

① [u:]

duva [ˈdu:va] <鳩>, nu [nu:] <今>, stuga [ˈstʉ:ga] <小屋>

② [ø]:

kung [køŋ:] <王>, luft [løft] <空気>, mun [men:] <口>

③ [u]: ①の短母音 [u] が現れる語もあるが、当該母音には強勢が

置かれない。

gudinna [gu'din:a] <女神>, kuvert [ku'væ:r] <封筒>, musik [mu'si:k]  
<音楽>

④ [v]: 人名における <qu> の結合においてのみ。

Hellquist ['hel:ɪ kvɪst] <ヘルクヴィスト> (姓名)

## (2) 軟母音を表わす母音字 (i, e, ä, ö, y) とその発音

<i>

① [i:]:

is [i:s] <氷>, tiga ['ti:ga] <黙る>, visa ['vi:sa] <見せる>

② [ɪ]:

film [fɪlm] <フィルム>, sitta ['sɪt:a] <すわる>, viss [vɪs:] <ある種の>

[例外] 次の目的格人称代名詞の発音:

mig [mej:] <私を/に>, dig [dej:] <君を/に>, sig [sej:] <彼・彼女・  
彼らを/に>

<e>

文字 <e> は [e:]/[e] の他に, <er (+C)> において <e> に強勢が置かれる場合, [æ:]/[æ] と発音される (<ä> で表わされる短母音と中和した音については § 2. 1. [e] の項参照)。

① [e:]:

leva ['le:va] <生きる>, resa ['re:sa] <旅行する>, se [se:] <見る>

② [e]:

svett [svet:] <汗>, tecken ['tek:en] <しるし>, fågel ['fo:gel] <鳥>

③ [æ:]: <er (+C)> において

erfara ['æ:rɪ fa:ra]/['e:r-] <経験する>, modern [mu'dæ:rɪn] <現代的>,  
Per [pæ:rɪ] <パール> (男性名; Pär と綴られる)

[例外] herde ['he:de] <羊飼>

[æ:] の音を示す語は, 接頭辞 er- を含む語, 借入語, 固有名詞などに認められる程度である。接頭辞 er- は ['e:r-] の発音も

よく聞かれる)

- ④ [æ]: <er+C> において.

berg [bærj] <山>, herre ['hær:e] <紳士>, Sverige ['sværje] <スウェーデン> (<i> は例外的に発音されない)

- ⑤ その他: 特にフランス語からの借入語において.

(i) <en> を含むいくつかの借入語において, <en> は [aŋ] と発音される.

engagera [aŋga'hje:ra] <没頭させる>, enkät [aŋ'kæt] <アンケート>,  
pension [paŋ'fju:n] <年金>

(ii) <-ge> を語末に持つフランス語からの借入語において,  
語末の <e> は発音されない.

bagage [ba'ga:fj] <手荷物>, garage [ga'ra:fj] <ガレージ>

#### <ä>

文字 <ä> には [ɛ:]/[e] の他に, <är (+C)> において <ä> に強勢が置かれる場合, [æ:]/[æ] と発音される (<e> で表わされる短母音と中和した音については § 2. 1. [e] の項参照).

- ① [ɛ:]:

läsa ['lɛ:sa] <読む>, träd [trɛ:d] <木>, väder ['vɛ:der] <天気>

- ② [e]:

häst [hest] <馬>, snäll [snel:] <親切な>, äpple ['eple] <りんご>

- ③ [æ:]: <är (+C)> において.

där [dær] <そこに>, lärare ['lær:are] <先生>, när [nær] <~するとき;  
いつ?>

- ④ [æ]: <är+C> において.

färja ['færja] <フェリー>, värme ['værme] <暖かさ>, tyvärr [tv'vær:]  
<残念ながら>

#### <ö>

文字 <ö> には [ø:]/[ø] の発音の他に, <ör (+C)> において <ö> に

強勢が置かれる場合, [œ:]/[œ] と発音される.

① [ø:]:

höger ['hø:ger] <右の>, ö [ø:] <島>, öl [ø:l] <ビール>

② [ø]:

röst [røst] <声>, trött [trøt:] <疲れた>, önska ['ønska] <願う>

③ [œ:]: <ör (+C)> において.

höra ['hœ:ra] <聞く>, mörda ['mœ:də] <殺す>, smör [smœ:r] <バター>

④ [œ]: <ör+C> において.

björk [bjœrk] <白樺>, början ['bœrjan] <始まり>, större ['stœ:e] (stor <大きい> の比較級)

<y>

① [y:]:

lysa ['ly:sa] <輝く>, ny [ny:] <新しい>, tyg [ty:g] <布地>

② [ɣ]:

lyssna ['lysna] <聴く>, rygg [rɣg:] <背>, yrke ['ɣrke] <職業>

[例外] 数詞 fyrtyo ['fœt:ɪ] <40>

注意: 借入語に現れる y は [j] と発音される.

yen [jen:] <円>, yoghurt ['jo:geɪ] <ヨーグルト>

## B. 子音字とその発音

子音の綴りとその発音をアルファベット順に挙げる.

<b>

① [b]: 無声子音の前では無声化し, [p] となる.

bad [ba:d] <入浴>, krabba ['krab:a] <カニ>, absolut [apsu'lu:t] <絶対の>

<c>

<-ck> の結合と接続詞 och [ɔk:, o:, ɔ] <そして> を除いては, 主として借入語に現れる.

① [s]: <c>+<e, i, y> において.

centrum ['sentrəm] <中心>, cirka ['sɪrka] <おおよそ>, cykel ['syk:el]  
<自転車>

② [k]: <c>+<上記①以外の母音字> および母音の後の <ck>.

camping ['kɑmpɪŋ] <キャンピング>, flicka ['flɪk:a] <少女>, tack [tak:]  
<ありがとう>

③ <ch> のとき:

(i) [ʃ]/[ʃ]: 主としてフランス語からの借入語.

chaufför [ʃo'fœ:r] <運転手>, chef [ʃe:f] <上司>, choklad [ʃo'kla:d]  
<チョコレート>; lunch [lənʃ]/[lənʃ] <昼飯> (英語からの借入語  
で, [ʃ] は [s] で発音されることも多い)

(ii) [ç]: 主として英語からの借入語.

check [çek:] <小切手>, chips [çɪps] <ポテトチップ ; (コン  
ピュータの)チップ>

## <d>

① [d]: 無声子音の前で無声化し, [t] となることがある.

dansa ['dansa] <踊る>, bredd [bred:] <広さ>, klädsel ['kle:tsel] <服装>

② [d]: 語中・語末の <-rd> の結合において.

bord [bu:d] <テーブル>, gård [go:d] <屋敷>, värde ['væ:de] <価値>

③ 発音されない:

(i) 語頭が <dj-> で始まる語.

djup [ju:p] <深い ; 深さ>, djur [ju:r] <動物>, djävur [jærv] <大胆な>

(ii) <-C+d+C-> の結合において.

handske ['hanske] <手袋>, utländsk ['ʉ:t lɛnsk] <外国の>,  
äldst [elst] (gammal <老いた> の最上級)

(iii) 日常の話し言葉において, 語末の <d> [d] は通例発音され  
ない.

alltid ([ˈaltɪd]→) [ˈaltɪ] <いつも>, med ([me:d]→) [me:] <〜と一緒に>,  
vad ([va:d]→) [va:] <何>

(iv) その他.

ledsen ['les:en] <悲しい>

## <f>

### ① [f]:

fot [fut:] <足>, kaffe ['kaf:e] <コーヒー>, straff [straf:] <罰>

### ② [v]: きわめて限られた語のみ. [f] で発音される語もある.

Gustaf ['gɛstav] <グスタヴ> (男性名); sfinx [svɪŋks] <スフィンクス>, sfär [svæ:r] <範囲>, Olof ['u:lɔv] <オーロヴ> (男性名) (sfinx, sfär は [f] で発音されることもある. しかし, atmosfär [atmɔs'fæ:r] <雰囲気> は常に [f]. Olof は [f] で発音されることもあるが, Olov と綴られると [v] の音である)

## <g>

さまざまな条件によって, 大きく分けて以下の6通りの発音になる.

### ① [g]:

(i) <g>+<a, å, o, u> (つまり硬母音字の前).

<g>+<C> (ただし, C は <j> を除く).

gata ['ga:ta] <通り>, gåta ['go:ta] <謎>, god [gud] <良い>,

gud [gu:d] <神>; glad [glɑ:d] <うれしい>

[例外] säga ['sej:a] <言う>; mig [mej:] <私を/に>, dig [de:]

<君を/に>, sig [sej:] <彼・彼女・彼らを/に>. (下記②

の(iv)参照)

(ii) 強勢のない音節における <g>.

fråga ['fro:ga] <質問; 質問をする>, mage ['mag:e] <腹>, spegel

['spe:gel] <鏡>

注意: gestalt [je'stalt] <姿>, geografi [jeogra'fi:] <地理学> (下記②の(ii)

参照); säger ['sej:er] (säga <言う> の現在形)

(iii) 語末の <g>. ただし, <-lg>, <-rg> の結合は除く(下記②の(iii)

参照).

lag [la:g] <法律>, våg [vo:g] <波>, ägg [eg:] <卵>

〔例外〕 säg [sej:] (säga <言う> の命令形)

② [j]:

(i) <g>+<i, e, ä, ö, y> (軟母音字の前で、その音節には強勢が置かれる)。

gift [jift] <結婚している>, ge [je:] <与える>, gäst [jest] <客>、

göra [ˈjœ:ra] <する>, gyttja [ˈjytja] <泥>

〔例外〕 getto [ˈgetu] <ゲットー>, logik [loˈgi:k] <論理> などの借入語。

(ii) 借入語においては、強勢のない音節における軟母音字 <i, e, ä, ö, y> の前でも <g> は [j] と発音される (上記 <g> の①(ii)「注意」を参照)。

gemensam [jeˈme:n | sam] <共通の>, gevär [jeˈvæ:r] <銃>、

gymnastik [jymnasˈti:k] <体操>

(iii) 語中・語末の <-lg>, <-rg>。

<-lg>:

helg [helj] <祝祭日>, svalg [svalj] <咽喉>, älg [elj] <ヘラジカ>

〔例外〕 helgon [ˈhelgɔn] <聖人>, Helge [ˈhelge] <ヘルゲ> (男性名)

<-rg>:

arg [arj] <怒って>, medborgare [ˈme:d | bɔrjare] <市民>、

orgel [ˈɔrjel] <オルガン>, Norge [ˈnɔrje] <ノルウェー>

(ただし、これらの子音結合に音節の切れ目がある語は除く:

gurgla [ˈgɜrgla] <うがいをする>, organ [ɔrˈgɑ:n] <器官>)

〔例外〕 kirurg [çrˈrɜrg] <外科医>; morgon [ˈmɔrɔ:n] <朝>

(iv) その他:

säga [ˈsej:a] <言う> (上記 <g> の①(i)〔例外〕を参照)

目的格の人称代名詞 (上記の母音字 <i> の項参照):

mig [mej:] <私を/に>, dig [dej:] <君を/に>, sig [sej:] <彼・

彼女・彼らを/に>

③ [ŋ]:

(i) 語中・語末の <ng> の結合において.

lång [lɔŋ:] <長い>, många ['mɔŋ:a] <多くの>, vinge ['vɪŋ:e] <翼>

注意: 合成語や借入語で <n> と <g> の間で音節が切れる語は除く:

angrepp ['an:ɪ grep:] <攻撃> (=an|grepp), ange ['an:ɪ je:] <述べる>

(=an|ge); ingenjör [ɪŋʃen'jœ:r] <技師>, fungera [fɔŋ'ge:ra] <機能する>

(なお, 最後の2語については <n> の③(ii)「注意 a)」を参照)

(ii) 語中・語末の <gn> の結合において.

regna ['reŋna] <雨が降る>, ugn [œŋn] <オーブン>, vagn [vaŋn]

<車両>

注意: 借入語や屈折によって <gn> の結合が生じた語は [ŋ] にはならず, [gn] である.

trogna ['tru:ŋna] (trogen ['tru:gen] <忠実な> の複数形/既知形)

diagnos [dia'gno:s] <診断>, prognos [pru'gno:s] <予知>

④ [k]: <s> [s] もしくは <t> [t] の前でしばしば無声化されて [k] になる.

slagsmål ['slaksɪ mo:l] <喧嘩>, sagt [sakt] (säga <言う> の完了分詞), dags [daks] <時点>

⑤ [ʃ]/[ʒ]: フランス語からの借入語で, <e> または <i> の前の <g>.

geni [ʃe'ni:] <天才>, garage [ga'ra:ʃ] <ガレージ>, energi [enær'ʃi:]

<エネルギー> (ただし; その形容詞 energisk <エネルギーシユな> の発音は [e'nærgisk])

注意: 借入語ではこの規則により発音される語もあれば, 上記の規則 (<g> の②(i)の <g>+<軟母音字>) 通り, [j] で発音される語もある. さらに一方では, [g] と発音される語もある.

[j]: regering [re'je:riŋ] <政府>, register [re'ʒister] <登録>

[g]: logik [lo'gɪk] <論理>, tragisk ['tra:gɪsk] <悲劇的な>

《参考》同じ借入語でも, 地域的・社会的・個人的な差異によって, [j]/[g] 両音の発音が認められる語:

zigenare [sɪ'je:nare] / [sɪ'ge:nare] <ジプシー>

⑥ 発音されない:

(i) 語頭の <gj-> の結合において.

gjorde ['ju:de] (göra <する> の過去形), gjuta ['ju:ta] <注ぐ>

(ii) 次の語の <g> は通例発音されない.

jag [ja:] <私>, dag [da:] <日> (さらに, dag を合成語の後要素に含む語: måndag ['mɔnda] <月曜日> などの曜日名); morgon ['mɔ:rɔn] <朝> (直前の [r] に同化される)

(iii) 特に日常の話し言葉において, 強勢のない <-ig(t)>, <-lig(t)> で終わる形容詞・副詞の <g> [g] は, 通例発音されない. ただし, <-igt>, <-ligt> の場合は, 上記④により [k] でも発音される.

aldrig ['aldri(g)] <決して～しない>, fattig ['fat:i(g)] <貧しい>, roligt ['ru:lɪ(k)t] (rolig <面白い> の単数中性形/副詞)

<h>

① [h]:

hand [hand] <手>, hemma ['hem:a] <家で>, enhet ['e:n | het] <単一体>

② 発音されない:

(i) 語頭の <hj-> の結合において.

hjul [ju:l] <車輪>, hjälpa ['jelpa] <助ける>, hjärta ['jæ:t:a] <心臓>

(ii) 語末の <h> やその他.

oh [o:] <オー> (間投詞); thriller ['tril:er] <スリラー>, Thomas ['tu:mas] <トーマス> (男性名), yoghurt ['jo:geɪ] <ヨーグルト>

<j>

① [j]:

Japan ['ja:pan] <日本>, fjäll [fjel:] <山>, maj [maj:] <5月>

② [ʃ]/[ʒ]: 借入語にみられる.

journalist [ʃuŋa'list] <ジャーナリスト>, projekt [pru'fjekt] <プロジェクト>

- ③ 語頭の <kj-> の結合において [ç] の音になる (文字 <k> の項参照).  
kjol [çu:l] <スカート>

## <k>

### ① [k]:

- (i) <k>+<a, å, o, u> (つまり硬母音字の前) ならびに  
<k>+<C> (ただし, C は <j> を除く)

kasta ['kasta] <投げる>, kål [ko:l] <キャベツ>, kopp [køp:]  
<カップ>, kusin [ku'si:n] <いとこ>; kniv [kni:v] <ナイフ>, makt  
[makt] <権力>, klocka ['kløk:a] <時計>

- (ii) 強勢のない音節における <k>.

taket ['tæ:ket] (tak <屋根> の単数既知形), rike ['ri:ke] <王国>,  
tråkig ['tro:kɪ(g)] <退屈な>

- (iii) 語末の <k>.

rik [ri:k] <豊富な>, sak [sa:k] <物>, smak [smæ:k] <味>

### ② [ç]:

- (i) <k>+<i, e, ä, ö, y> (軟母音字の前で, その音節には強勢が置かれる. ただし, <sk> の結合については, <s> の項 ③(i)(ii) および(vi)の「注意」d) を参照)

kind [çɪnd] <頬>, kedja ['çe:dja] <鎖>, känd [çend] <有名な>,  
kött [çø:t] <肉>, kyrka ['çyrka] <教会>

注意: 借入語, 新語, 地名 (特に, スウェーデン北部のサーミ語による地名) では, 軟母音の前でも [k] で発音される.

kö [kø:] <行列>, paket [pa'ke:t] <包み>, kille ['kɪl:e] <男の子>,  
Kiruna ['kɪr:øna] <キルナ> (スウェーデン北部の町)

- (ii) 語頭の <kj->. この子音結合で始まる単語は人名を除けばほんのわずかで, そのうちよく使われるのは次の1語のみである.

kjøl [çu:l] <スカート>; (人名: Kjell [çel:] <チェル> (男性名))

- ③ [k]/[ç]: いくつかの語 (その多くは借入語) は, 地域的・社会的・個人的な差異によって, [k] もしくは [ç] で発音される.  
arkitekt [arkr'tekt] / [arçr'tekt] <建築家>.

kilo ['ki:lʊ] / ['çi:lʊ] <キログラム>、

kiosk ['kɪɔsk] / ['ç(ɪ)ɔsk] <キオスク>

なお、<ck>、<sk>の発音については、それぞれ <c>、<s>の項を参照。

## <l>

### ① [l]:

lukt [lœkt] <におい>、kalla ['kal:a] <呼ぶ>、stol [stu:l] <椅子>

### ② [l]: 語中・語末の <rl> の結合において。

farlig ['fa:ɾɪg] <危険な>、härlig ['hæ:ɾɪg] <素晴らしい>、pärla

['pæ:a] <真珠>

[例外] <rl> の結合だが、そり舌音にはならない:

Karl [ka:ɾl] <カール> (男性名; <r> は発音されない)

karl [ka:ɾ] <男> (<l> は発音されない; 下記③(ii)参照)

### ③ 発音されない:

(i) 語頭の <lj-> の結合において。

ljud [jʉ:d] <音>、ljus [jʉ:s] <光; 明るい>、ljög [jø:g] (ljuga ['jʉ:ga]  
<嘘をつく> の過去形)

(ii) その他、例外的に <l> が発音されない語:

värld [væ:ɾd] <世界>

(<l> が発音されないため <rd> の結合ということになり、  
そり舌音で発音される。その結果 värd [væ:ɾd] <〜に値する>  
と同じ発音になる)

karl [ka:ɾ] <男> (上記②の例外を参照)

## <m>

### ① [m]:

man [man:] <人; 男>、hamn [hamn] <港>、smuts [smøts] <汚れ>

## <n>

### ① [n]:

näsa ['nɛ:sa] <鼻>、sömn [sømn] <睡眠>、tunna ['tøn:a] <樽>

② [ŋ]: 語中・語末の <rn> の結合において.

barn [ba:n] <子供>, gärna ['jæ:ŋa] <喜んで>, horn [hu:n] <つの>

③ [ŋ]:

(i) <k> の前において.

ankare ['aŋkare] <錨>, bank [baŋk] <銀行>, tanke ['taŋke] <考え>

(ii) 語中・語末の <ng> の結合において (<g> の③(i)参照).

hänga ['heŋ:a] <掛ける>, sång [sɔŋ:] <歌>, tung [tøŋ:] <重い>

注意 a): <n> のみで [ŋ] を表わす語もある (<g> の③(i)「注意」を参照).

ingenjör [iŋŋjen'jœ:r] <技師>, fungera [føŋ'ge:ra] <機能する>

注意 b): 語中・語末の <gn> の結合は [ŋn] となる (<g> の③(ii)参照).

regn [reŋn] <雨>, lugna ['løŋna] <落ち着かせる>

④ 発音されない: 語中・語末の <-C+n+C-> の結合において.

jämnt [jemt] (jämn [jemn] <平らな> の単数中性形/副詞. jämt [jemt] <常に> と同じ発音になる),

nämnde ['nemde]/nämnt [nemt] (nämna ['nemna] <言及する> のそれぞれ過去形/完了分詞)

## <p>

① [p]:

papper ['pap:er] <紙>, skapa ['ska:pa] <創造する>, spik [spi:k] <釘>

② 発音されない: <ps> で始まるいくつかの借入語.

psalm [salm] <賛美歌>, psaltare ['saltare] <(旧約聖書中の)詩篇>

注意: これ以外の <ps> で始まる語は通例 <p> [p] が発音される.

pseudo- ['psevdɔ-] <偽りの>, psykologi [i psykolɔ'gi:] <心理学>,

psoriasis [psɔ'rɪ:asɪs] <乾癬>

## <q>

多くは <qv> もしくは <qu> の結合で現れ, 借入語と固有名詞に見られるのみである. なお, <qu> は [kv] と発音される.

① [k]:

Qatar [ka'tɑ:r] <カタール> (国名) quisling ['kvɪslɪŋ] <売国奴>,  
Lindqvist ['lɪndɪkvɪst] <リンドクヴィスト> (姓名)

<r>

① [r]:

rot [ru:t] <根>, torr [tɔ:r] <乾いた>, söder ['sø:der] <南>

注意: 下記②を除いては、語中・語末の <r> もあいまいな音にならず、明瞭に発音される。

② 発音されない:

(i) 語中・語末の <rd>, <rl>, <rn>, <rs>, <rt> の結合において、  
[r] 音は後続するそれぞれの子音と融合し、そり舌音になる  
(<d>, <l>, <n>, <s>, <t> のそれぞれの項参照)。

jord [ju:d] <大地>, kärl [çæ:l] <容器>, järn [jæ:n] <鉄>, kurs [kø:s]  
<コース>, vart [vat:] <どこへ?>

[例外] Karl [ka:l] <カール> (男性名; <r> は発音されない)。  
なお, karl [ka:r] <男> は <l> が発音されない)

(ii) 次の語では日常の話し言葉において無強勢の場合、通例 [r]  
は発音されない。

är [æ(:), e(:), e(:)], var [va:] (それぞれ vara <～である> の現在  
形, 過去形)

<s>

スウェーデン語の <s> は、決して有声音 [z] になることはない。

① [s]:

sol [su:l] <太陽>, svår [svø:r] <困難な>, frysa ['fry:sa] <凍る>

② [ʃ]:

(i) 語中・語末の <rs> の結合において。

annars ['an:aʃ] <さもないと>, försök [fœ'ʃø:k] <試み>, mars [ma:ʃ]  
<3月>, norsk [noʃk] <ノルウェーの>, varsågod [ɪ va:ʃ:ɔ'gu:(d)]  
<どうぞ>

(ii) 語中の <sc>: 主に借入語.

fascinerad [faʃiˈnɛrɑd] <うっとりする>, fascist [faˈʃɪst] <ファシスト党员>

注意: <sc> を [s] と発音する語.

disciplin [dɪsɪˈpliːn] <規律>, scen [seːn] <場面> など.

(iii) 語頭の <sch>: 限られた語のみ.

Schweiz [ʃvejs] <スイス>, schweizisk [ˈʃvejsɪsk] <スイスの>

### ③ [ʃ]/[ʃ]:

(i) <sk>+<i, e, ä, ö, y>

(軟母音字の前で, その音節には強勢が置かれる. ただし, <s> と <k> の間に音節の切れ目がある語は除く. 下記参照).

skicka [ˈʃɪkːɑ] <送る>, maskin [maˈʃiːn] <機械>, skepp [ʃepː] <船>.

besked [beˈʃeːd] <回答>, skäl [ʃɛːl] <理由>, skön [ʃøːn] <心地良い>

[例外] 借入語: skepsis [ˈskepsɪs] <懐疑>, skiss [skɪsː] <概略> など.

(ii) <sk>+<j>.

skjorta [ˈʃjʊːɑ] <シャツ>, skjul [ʃjuːl] <納屋>, skjuta [ˈʃjʊːɑ] <射る>

(iii) 強勢のある音節が <stj-> で始まるとき.

stjåla [ˈʃtjɛːlɑ] <盗む>, stjålk [ʃtjɛlk] <茎>, stjærna [ˈʃtjɛːnɑ] <星>

(iv) 強勢のある音節が <sj-> で始まるとき.

sju [ʃjuː] <7>, själ [ʃɛːl] <魂>, sjö [ʃøː] <湖; 海>

(v) <sch>, <sh> の結合において. 借入語に見られる:

a) <sch>:

語頭: schack [ʃakː] <チェス>, schema [ˈʃeːmɑ] <案>

[例外] schizofreni [ˌʃkɪtsʊfrɛˈniː] <精神分裂症>

語中・語末: duscha [ˈdøʃːɑ] <シャワーを浴びる>, bransch [branʃ] <業界>

b) <sh>:

sherry [ˈʃɛːrɪ] <シェリー酒>, shop [ʃɔpː] <店>

(vi) 語中の <(s)si>, <ssj>, <sti> の結合において.

a) <(s)si>: 主に借入語.

division [driˈvʲu:n] <分割>, passionerad [paʃuˈne:rad] <熱情的な>,  
pension [panʲʲu:n] <年金>(pen- の発音に注意. § 6. A. (2)<e>  
の⑤(i)参照)

b) <ssj>: スウェーデン語本来の限られた語のみ.

hässja [ˈheʃʲ:a] <干し草掛け>, ryssja [ˈryʃʲ:a] <筒状の網 (釣道具)>,  
vyssja [ˈvyʃʲ:a] <子供を寝かしつけるために子守歌を口ずさむ>

c) <sti>: 限られた固有名詞のみ.

Kristianstad [kriˈʃʲansta] <クリシャンスタ> (スウェーデン南部  
の町)

d) <-st>|<g+軟母音字>

合成語中において, 前要素が <st> で終わり, 後要素が <g+軟  
母音字> で始まるときに生じる結合で, 日常の話し言葉では  
しばしば [ʃ]/[ʃ] となるが, 綴り通りに [-st]+[j-] と発音される  
こともある.

västgöte [ˈveʃʲ:øte] / [ˈvest | jøte] <西ヨータランドの人>,  
östgöte [ˈøʃʲ:øte] / [ˈøst | jøte] <東ヨータランドの人>,  
gästgivare [ˈjeʃʲ: i: vare] / [ˈjest | ji: vare] <旅館の主>

注意: 以下の場合, 綴り通り [sk] と発音される:

a) <sk>+<a, å, o, u> (つまり硬母音字の前).

skatt [skat:] <税金; 宝>, skåp [sko:p] <戸棚>, skog [sku:g] <森>,  
skugga [ˈskøg:a] <影>

[例外] människa [ˈmen:ɪʃʲa] <人間>, marskalk [maˈʃalk] <司令官>

b) <sk>+<C> (ただし, C は <j> を除く. 上記 <s> ③(ii)参照)

skrika [ˈskri:ka] <叫ぶ>, skvaller [ˈskval:er] <ゴシップ>

c) 音節末の前の <sk>.

asken [ˈasken] (ask <灰> の単数既知形), fisk [fisk] <魚>, fiske  
[ˈfiske] <漁業>, ruskig [ˈrøskɪg] <不快な>, komisk [ˈku:mɪsk]  
<喜劇的な>

[例外] skelett [ske'let:] <骸骨>, kanske ['kanʃe] <おそらく>  
(助動詞 kan と動詞 ske [ʃe:] <起こる> の合成語)

d) <s> と <k> の間に音節の切れ目がある語。

konfiskera [konfis'ke:ra] <没収する>, demaskera [demas'ke:ra]  
<仮面をはぐ> (<k>+<軟母音字> ではあるが, 発音は [k] で  
あることに注意. <k> の項②(i)参照).

(Hedelin (1997) によると以下の語は上記の語とは異なる  
音節の切れ目を示している; maskera [ma'ske:ra] <仮装する>,  
riskera [ri'ske:ra] <危険を冒す>)

<t>

① [t]: <th>と綴られても [t] の音である.

titta ['tit:ta] <見る>, stå [sto:] <立っている>, hat [hɑ:t] <憎しみ>,  
thriller ['tril:er] <スリラー>, Thomas ['tu:mas] <トーマス> (男性名)

② [t]: 語中・語末の <rt> の結合において. ただし, <-ert> で終わ  
るいくつかのフランス語からの借入語は除く(下記⑥(i)参照).

karta ['ka:tʰa] <地図>, ort [u:t] <場所>, svart [svɑ:t] <黒い>

③ [ɕ]: 強勢のある音節が <tj-> で始まるとき.

tjock [ɕɔ:k] <太った>, tjäna ['ɕe:na] <稼ぐ>, förtjust [fœr'ɕu:st]  
<気に入っている>

注意: 語中・語末の <-tja> は [-tja] と発音される.

gyttja ['jytja] <泥>, utnyttja ['u:t | nɔytja] <利用する>, vittja ['vitja]  
<漁る>; なお, 男性名 Fritjof ['fritjɔf] <フリッツィヨフ> も [-tj-]  
と発音される.

④ [ʃ]/[ʒ]: 語中・語末の <-tion(-)> における <ti>.

lektion [lek'ʃju:n] <授業>, station [sta'ʃju:n] <駅>, funktionell  
[fœŋkʃu'nel:] <機能的な>

[例外] bastion [basti'u:n] <要塞>

注意: 次の4語およびその派生語・合成語のみ <ti> において  
<t> [t] も発音される.

motion [mu'tʃju:n] <運動>, nation [nat'ʃju:n] <国民>, portion

[pɔt'ʃu:n] <(食べ物) 1人前>, rationalisering [ɪ ratʃʊnalɪ'se:rɪŋ]  
<合理化>

- ⑤ [ts]: 語中・語末の <-tia(-)>, <-tie(-)> の結合において。  
aktie [ˈaktsiə] <株>, initiativ [ɪ mɪtsɪa'ti:v] <イニシアチブ>,  
justitieminister [jøs'ti:tʃe mɪɪ nɪstər] <法務大臣>  
〔例外〕 patient [pasɪ'ent] <患者>

⑥ 発音されない:

(i) <-ert> で終わり, その音節に強勢が置かれるいくつかの  
フランス語からの借入語。

dessert [de'sæ:r] <デザート>, konsert [kon'sæ:r] <コンサート>,  
kuvert [ku'væ:r] <封筒>

注意: expert [eks'pæt:] <専門家>

(ii) その他, 日常の話し言葉における以下の語:

det [de:] <それ> (限定詞, 指示・人称代名詞の単数中性形)  
att [ɔ] (不定詞を導くマーカー. ただし, 接続詞としての att は  
常に [at:] と発音されることに注意; § 8. B. (2) 参照)

### <V>/<W>

<v> と <w> の発音は同じであることはすでに述べた (§ 1. (1) 参照)。

① [v]:

veta [ˈve:ta] <知っている>, riva [ˈri:va] <裂く>, halv [halv] <半分>;  
Wallenberg [ˈval:enɪ bærj] <ヴァッレンバリ> (姓名)

- ② [f]: 無声子音 [s], [t] が後続すると無声化されて, [f] になる。  
livstid [ˈlɪfsɪ ti:d] <一生>, trivsel [ˈtrɪfsel] <快適さ>, halvt [halft]  
(halv <半分の> の単数中性形)

### <X>

- ① [ks]: 英語のように, 決して [gz] のように有声音にはならない。  
なお, 語中の <xc> も [ks] となる。

exempel [ek'sempel] <例>, läxa [ˈlɛksa] <宿題; 教訓>, växt [vekst]

〈植物〉; exceptionell [eksepʃu'nel:] 〈例外的な〉

② [kʃ]/[kʃ]: 語中・語末の 〈-xion(-)〉 における 〈xi〉.

reflexion [reflek'ʃju:n] 〈反射〉

注意: Växjö ['vek:ɹ ʃjø:] 〈ヴェックシュー〉 (スウェーデン南部の町)

## 〈z〉

常に無声音 [s] であって、決して有声音 [z] にはならない。  
スウェーデン語には [z] の音は存在しない。

① [s]:

zink [sɪŋk] 〈亜鉛〉, zoo [su:] 〈動物園〉, zon [su:n] 〈地帯〉

② [ts]: 限られた語における語中・語末の 〈z〉.

Schweiz [ʃvejts] 〈スイス〉, schweizisk ['ʃvejtsɪsk] 〈スイスの〉

## § 7. 特に注意すべき綴り字の発音

ここでは、§ 6 で述べた母音字・子音字の発音のうち、特に重要な綴りの結合とその発音について簡単にまとめる。詳しくは、前章の当該文字の項を参照されたい。また、参考のために子音に関する異形同音異義語も挙げる。

### § 7.1. まとめ：重要な綴り字結合とその発音

#### A. 母音字について

強勢のある音節において

<e>+<r>	→ [æ:r]	<ä>+<r>	→ [æ:r]
<e>+<r+C>	→ [æ:rC]	<ä>+<r+C>	→ [æ:rC]
<ö>+<r>	→ [œ:r]		
<ö>+<r+C>	→ [œ:rC]		

#### B. 子音字について

##### (1) 語頭の子音

- ① 語頭の子音の発音の仕方が後続の母音や子音の種類によって左右される場合.

<g>+<i, e, ä, ö, y>	→ [j]	<g>+<a, å, o, u>	→ [g]
<k>+<i, e, ä, ö, y>	→ [ç]	<k>+<a, å, o, u>	→ [k]
<kj->	→ [ç]		
<tj->	→ [ç]		
<sk>+<i, e, ä, ö, y>	→ [ʃ]/[ʃ]	<sk>+<a, å, o, u>	→ [sk]
<skj->	→ [ʃ]/[ʃ]		
<stj->	→ [ʃ]/[ʃ]		
<sj->	→ [ʃ]/[ʃ]		

② 語頭の最初の子音字が発音されない。

<dj->, <gj->, <hj->, <lj-> → [j]

(2) 語中・語末の子音結合:

<-lg> → [lj]      <-rg> → [rj]

そり舌音:

<-rd> → [ɾ]      <-rl> → [ɽ]      <-rn> → [ɽ]

<-rs> → [s]      <-rt> → [t]

### § 7.2. 異形同音異義語

上記の綴りの違いにより、生じる異形同音異義語について挙げる。

(1) <dj->, <gj->, <hj->, <lj-> はすべて [j] の音になる (§ 6.B. の <d>③(i); <g>⑥(i); <h>②(i); <l>③(i) の各項参照):

#### 異形同音異義語

<dj->

<j->

[jærv]: djärv <大胆な>

: järv <(動物)クズリ>

<gj->

<hj->

<j->

[ju:d]: gjord (göra <する> の  
過去分詞)

: hjord <群れ>

: jord <大地>

<gj->

<hj->

[jʊt:]: gjort (göra <する> の  
完了分詞)

: hjort <鹿>

<hj->

<j->

[ju:l]: hjul <車輪>

: jul <クリスマス>

<hj->

<g+軟母音字>

[ˈjæ:nə]: hjärna <脳>

: gärna <喜んで>

<lj->

<gj->

[ˈjʉ:ta]: ljuta <(ljuta döden の : gjuta <鑄造する>  
表現で) 死ぬ>

(2) <kj->, <tj-> はともに [ç] の音になる (§ 6. B. <k>②, <t>③の  
各項参照):

異形同音異義語

<tj->

<ch->

<k+軟母音字>

[çek:]: tjeck <チェコ人男性> : check <小切手> : käck <快活な>

(3) <sj->, <skj->, <stj-> においては [ʃ]/[ʃ] の音になる (§ 6. B.  
<s>③参照):

異形同音異義語

<sj->

<stj->

<sk+軟母音字>

[ʃe:l]: själ <精神> : stjäl (stjäla <盗む> の : skäl <理由>  
現在形)

<sj->

<sk+軟母音字>

[ˈʃelva]: själva (själv <自身> : skälva <揺れる>  
の複数形)

(4) <-lg>, <-rg> における <g> は [j] と発音される (§ 6. B. <g>  
② (iii) 参照):

異形同音異義語

<-rg>

<-rj>

[ˈfærja]: färga <色をつける> : färja <フェリー>

(5) <-rd>, <-rl>, <-rn>, <-rs>, <-rt> においては, それぞれそり舌音  
[d], [l], [n], [s], [t] になる (§ 6. B. の <d>, <l>, <n>, <r>, <s>, <t>  
の各項参照):

そり舌音か歯音かによって意味が異なる語

そり舌音	歯音
[d]	[d]
bord <テーブル>	: bod <商店>
mord <殺人>	: mod <勇気>

[ɲ]	[n]
torn <塔>	: ton <トーン>
varna <警告する>	: vana <習慣>

[ʃ]	[s]
i morse <今朝>	: mosse <沼>
vars <誰の> (関係詞)	: vass <鋭い>

[t]	[t]
bort <向こうへ>	: bott (bo <住む> の完了分詞)
sporta <スポーツをする>	: spotta <唾を吐く>
fart <速さ>	: fat <皿>
start <スタート>	: stat <国家>

注意: そり舌音の直後にさらに <d, l, n, s, t> が続くと, これらの子音は引き続き同化されてそり舌音になる.

[d]: barndom ['bɑ:ɲɪ dʊm:] <幼年時代>, torsdag ['tu:ʃdɑ] <木曜日>

[l]: förslag [fœ'ʃ{ɑ:g}] <提案>, forsla ['fœʃ{ɑ}] <運搬する>

[ɲ]: hårdna ['ho:dɲɑ] <かたくなる>, ordning ['o:dɲɪŋ] <秩序>

[ʃ]: barnslig ['bɑ:ɲʃlɪg] <幼稚な>, fortsätta ['fʊt:ɪ ʃet:ɑ] <続ける>

[t]: förstå [fœ'ʃ{t:o}] <理解する>, törstig ['tœʃtɪg] <のどの渴いた>

## § 8. 口語における発音上の特徴

日常の話し言葉においては、綴り通り発音されない文字や、音を多少変化させる語がある。それらはきわめて使用頻度の高い語彙の中に見出されることが多い。それらを以下に挙げる。

### A. 発音されない場合

(1) 語末音が省略される。

① 多くは単音節の日常的な語彙に見られる：

a) 発音されない語末の <d> [d].

god [gu:] <良い>, med [me:] <～と一緒に>, vad [va:] <何>

b) 発音されない語末の <g> [g].

jag [ja:] <私>, dag [dɑ:] <日> (また söndag [ˈsønda] <日曜日> など dag を含む合成語において)

c) 発音されない語末の <t> [t].

det [de:] (代名詞・限定詞 den の単数中性形), litet [ˈlite] <小さい; 少し>, mycket [ˈmykɛ] <非常に; 多量の>

② 形容詞の語尾 <-ig> の <g> [g] は通例、発音されない。しかし、これらの形容詞が t-語尾付加によって単数中性形/副詞を形成するとき、すなわち <-igt> において <g> [g] は無声化して [k] になることもある。

tidig [ˈti:di(g)] <早い> : tidigt [ˈti:di(k)t] <早く>

vanlig [ˈva:nli(g)] <通常の> : vanligt [ˈva:nli(k)t] <通例(の)>

③ 数詞 30～90 の語末の <o> [u]。またこれらの数詞が組み合わせられても同様である。

trettio [ˈtret:ti] <30>, nittio [ˈnit:ti] <90>, fyrtyofem [fœɪrˈfem:] <45>

④ いくつかの動詞の語末：

a) vara <～である> の現在形、過去形の語末の <r> [r].

är [æ(:), ɛ(:), e(:)] (現在形), var [va:] (過去形)

b) lägga <横たえる>, säga <言う> の過去形において。

lade [la:], sade [sa:] (発音通り la, sa と綴られることもある)

- c) 第1活用動詞の過去形は、過去形の語尾が脱落して不定詞と同音になることがある。

prata [ˈpru:tɑ] (=pratade; prata <話す> の過去形),

ropa [ˈru:pa] (=ropade; ropa <叫ぶ> の過去形)

- (2) 語中音が発音されない、いわゆる「短縮形」.

強勢のある音節に続く語中音 “d+e/a”, “g+e/a/o” が脱落して、短縮形を形成する語がいくつかある. この語中音脱落は限られた、しかしきわめて日常的な語彙に生ずる. 綴りの上ではきちんと書かれていても、発音される時は短縮形を使うことが多い.

- ① “d+e/a” 脱落が見られる語:

far [fu:r] <父親> (=fader), mor [mu:r] <母親> (=moder), bror [bru:r] <兄弟> (=broder), arton [ˈɑ:tɔn] <18> (=arderton),  
er, ert, era [e:r, e:t, ˈe:ra] <あなた(がた)の> (=eder, edert, edra)  
(以上の語は、書き言葉でも語中音脱落を起こしている短縮形で綴られるのが一般的である)

månan [ˈmo:nan] (=månaden; månad <(暦の)月> の単数既知形), stan [sta:n] (=staden; stad <都会> の単数既知形), sen [se:n] (=sedan <それから>), sån, sånt, såna [sɔn:, sɔnt, ˈsɔn:a] (=sådan, sådant, sådana <そのような>)

- ② “g+e/a/o” 脱落が見られる語:

dan [da:n] (=dagen; dag <日> の単数既知形), dar [da:r] (=dagar; dag <日> の複数未知形), nån, nåt, nåra [nɔn:, not:, ˈno:ra] (=någon, något, några <誰か; 何か>), nånsin [ˈnɔnsin] (=nångonsin <これまで>), nånstans [ˈnɔnstans] (=någonstans <どこかに>), nånting [ˈnɔn: | tɪŋ] (=någonting <何か>),

tjugoett [ | ʧu:ˈet:] <21> (= | ʧu:guˈet:]; 綴りは略さずに書かれるが、発音される時は語中の -go- は、しばしば脱落する. 21~29 の数詞についてこのことが言える)

《参考》スウェーデン語の語中音脱落による短縮形については、歴史的・文体的視点からみた以下の研究がある.

Carin Östman. 1992. *Den korta svenskan. Om reducerade ordformers inbrytning i skriftspråket under nysvensk tid.* Uppsala: Institutionen för nordiska språk vid Uppsala universitet.

## B. 発音が変わってしまう語

- (1) 次の数詞の語末: [u] → [e] になる.

nio ['ni:e] <9> (= ['ni:u]), tio ['ti:e] <10> (= ['ti:u]), tjugo ['tʃu:ge] <20> (= ['tʃu:gu])

- (2) その他の重要な語.

att [ɔ] (もしくは [at:]; 不定詞を導くマーカー)

de [dɔm:] <彼らは> (3人称代名詞複数主格)

dem [dɔm:] <彼らを/に> (3人称代名詞複数目的格)

注意: 不定詞を導く att は, 日常の話し言葉では [at:] の他に [ɔ] と発音されることもしばしばある. しかし, 接続詞としての att はくだけた話し言葉でも常に [at:] であり, [ɔ] と発音すると誤りとなるので注意を要する (§ 6. A. (1) <a> の項参照). なお, 不定詞を導く att と接続詞 och <そして> (無強勢の場合) はともに [ɔ] の発音となる.

注意: 方言によっては様々な発音もあるが, 現代の標準スウェーデン語では主格の de も目的格の dem も, ともに [dɔm:] と発音される. そのため dom と綴られることもあるが, 書き言葉では両者の綴りは上記のように必ず区別して書くことが求められる. なお, de を [de:] とは発音しないこと. [de:] は det (代名詞・限定詞 den の単数中性形) を意味するので注意 (§ 8. A. (1) ① c) 参照).

- (3) 語連続におけるそり舌音.

文節中の語連続において, <r> で終わる語の後に <d, l, n, s, t> で始まる語が休止なく続く場合には, その <r> とこれらの子音とが語と語の間で同化してそれぞれ, そり舌音 [d] [l] [n] [s] [t] を形成する.

[d]:Kommerdu? <来ますか?>, När då? <いつ?>

[l]: Hur långt? <どのくらい遠いのですか?>

[n]:Har ni hört? <聞いたことがありますか?>

[s]:för stor <大きすぎる>, Han tvättar sig. <彼は体を洗う>

[t]: för tidigt <早すぎる>

( § 2. 2. の [d] [l] [n] [s] [t] の項参照)

## § 9. 特に注意すべき綴り <m> と <n> について

スウェーデン語では、屈折や派生を通じて語中・語末の <m>, <n> が重ね綴りになったり、重子音字の <mm>, <nn> の1つが脱落したりすることがある。注意しなければならないのは、このような場合は通例これらの子音字の前の母音は短く、また同時に第1強勢があることである。

### A. <m>, <n> が重ねられる場合

語末が〔短母音+<m>〕もしくは〔短母音+<n>〕の結合で終わる語において、屈折・派生により次に母音が続く場合、通例 <m>, <n> は重ねられる。

#### (1) <m> → <mm>:

rum [røm:] <部屋> → rummet [ˈrøm:et] (rum の単数既知形)

dum [døm:] <愚かな> → dumma [ˈdøm:a] (dum の既知形/複数形)

dröm [drøm:] <夢> → drömma [ˈdrøm:a] <夢を見る>

注意: 次の派生語は母音が短いにもかかわらず、<m> は重ね綴りをしない。

dom [døm:] <判決> → döma [ˈdøm:a] <裁く>

→ domare [ˈdøm:are] <裁判官>

Rom [rum:] <ローマ> → romare [ˈrum:are] <ローマ人>

#### (2) <n> → <nn>:

man [man:] <男> → mannen [ˈman:en] (man の単数既知形)

→ männen [ˈmen:en] (man の複数既知形)

vän [ven:] <友人> → vännen [ˈven:en] (vän の単数既知形)

→ vänner [ˈven:er] (vän の複数形)

#### (3) 次の場合は <m>, <n> を重ね綴りしない:

① <m>, <n> の直前の母音が長母音のとき。

dam [da:m] <婦人> → damen [ˈda:men] (dam の単数既知形)

tam [ta:m] <飼いならされた> → tama ['ta:ma]  
(tam の既知形/複数形)

problem [pru'ble:m] <問題> → problemet [pru'ble:met]  
(problem の単数既知形)

ben [be:n] <脚; 骨> → benet ['be:net]  
(ben の単数既知形)

② <m>, <n> の直前の母音に第1強勢が置かれなとき.

album ['albəm] <アルバム> → albumet ['albəmet]  
(album の単数既知形)

pronomen [pru'no:men] <代名詞> → pronomenet [pru'no:menet]  
(pronomen の単数既知形)

③ <m>, <n> の直後に別の子音字が続くとき.

dum [dəm:] <愚かな> → dumt [dɛmt] (dum の単数中性形/副詞)

sån [søn:] <そのような> → sånt [sɔnt] (sån (=sådan) の単数中性形)

## B. 重子音字の <mm>, <nn> の各1字が脱落する場合

(1) 語中に〔短母音+<mm>+母音〕もしくは〔短母音+<nn>+母音〕の結合を含む語において、屈折・派生により重子音字の直後に別の子音が続く場合、<mm>, <nn> の各1字は脱落する.

① <mm> → <m>+<C>:

nummer ['nøm:er] <番号> → numret ['nømret]  
(nummer の単数既知形)

sommar ['søm:ar] <夏> → somrar ['sømrar]  
(sommar の複数形)

glömma ['gløm:a] <忘れる> → glömde ['glømde] / glömt [glømt]  
(glömma のそれぞれ過去形/完了分詞)  
→ glömsk [glømsk] <忘れっぽい>

② <nn> → <n>+<C>:

sann [san:] <真実の> → sant [sant] (sann の単数中性形/副詞)

känna ['çen:a] <感知する> → kände ['çende] / känt [çent]

(känna のそれぞれ過去形/完了分詞)

→ känsla ['çensla] <感情>

(ただし, känns [çens] <感じられる> (känna の s-受動態現在形) では <n> は脱落しない。しかし, glöms [gløms] <忘れられる> (glömma の s-受動態現在形) では規則通り, <m> が 1 字脱落する)

(2) 語中に [短母音+<mm>+母音] の結合を含む語において, 主として屈折により重子音字に後続する母音, すなわち語末の母音が消失すると, <m> は 1 字脱落する。しかし, これは重子音字 <nn> の場合には適用されない。

glömma ['gløm:a] <忘れる> → glöm [gløm:] (glömma の命令形)

gömma ['jøm:a] <隠す> → göm [jøm:] (gömma の命令形)

komma ['køm:a] <来る> → kom [køm:] (komma の命令形/  
過去形)

しかし,

känna ['çen:a] <感知する> → känn [çen:] (känna の命令形)

注意: 重子音字の <mm>, <nn> を含む動詞の活用を挙げる。両者の綴りを比較せよ。

不定詞	現在形	受動態	命令形	過去形	完了分詞
gömma <隠す>	gömmer	göms	göm	gömde	gömt
känna <感知する>	känner	känns	känn	kände	känt

## スウェーデン語 音声記号 (IPA)

子音 (Konsonanter)		両唇	唇歯	歯	そり舌	硬口蓋 歯茎	歯茎 硬口蓋	前部 硬口蓋	後部 硬口蓋	(硬口蓋) 軟口蓋	声門
		閉鎖音 無声 有声	p b		t d	ʈ ɖ					
摩擦音 無声 有声		f v	s	ʃ	ʃ	ç		j	ɰ		h
側面音 (有声)			l	ɭ							
ふるえ音 (有声)			r								
鼻音 (有声)	m		n	ɳ						ŋ	

母音 (Vokaler)	前舌			中舌		後舌	
	非円唇	円唇	円唇	非円唇	円唇	非円唇	円唇
		外向き丸め	内向き丸め		内向き丸め		内向き丸め
狭口	i: ɪ	y: ʏ	u: ʊ				u: ʊ
半狭口	e: e	ø: ø		ø	ø		o: o
半広口	ɛ: ɛ	œ: œ					o
広口	æ: æ						
超広口	a					ɑ:	

本書では [j] の代わりに [ɰ] を用いる (p. 12 参照)。

本書では用いていないが、弱強勢音節中で [e] を用いる代わりに [ø] が用いられることもある (p. 6 参照)。

本書では短母音の [e] と [ɛ] との中和された音には [e] を用いる (p. 6f. 参照)。

### 韻律記号 (Prosodiska tecken)

[ˈ]=アクセント1 + 第1強勢; [ˑ]=アクセント2 + 第1強勢; [˒]=第2強勢;  
[ː]=音長。

なお、本文中ではアクセント1を持つ単音節語のアクセント記号は省略する。

## 参 考 文 献

本文中の《参考》に挙げた文献は原則としてここでは省略し、発音を説明するうえで使用した文献を下記に挙げる。

(スウェーデン語文献の発行地は特記のないかぎり Stockholm)

- Allén, Sture *et al.* 1981. *Svensk baklängesordbok*. Esselte Studium.
- Alsnäs, Marie, Kerstin Kaunitz, Marianne Liljegren & Kerstin Sparre. 1990. *Svenska som andraspråk*. Lund: Liber.
- Bannert, Robert. 1994. *På väg mot svenskt uttal*. Lund: Studentlitteratur.
- Dahlstedt, Karl-Hampus. 1967. *Svårigheter i svenskans uttal*. Lund: Modersmållärarnas förening.
- Dansk sprognævn. (utg.). 1977. *Efternavne i Norden med udtaleangivelse*. København: Nordisk Forlag A.S.
- Elert, Claes-Christian. 1995. *Allmän och svensk fonetik*. (7:de upplagan). Norstedts förlag.
- 1970. *Ljud och ord i svenskan*. Almqvist & Wiksell.
- Forskningscentralen för de inhemska språken. (utg.). 1994. *Svensk uttalsordlista*. Helsingfors: Tryckericentralen.
- Garlén, Claes. 1988. *Svenskans fonologi*. Lund: Studentlitteratur.
- Gårding, Eva. 1974. *Kontrastiv prosodi*. Lund: CWK Gleerup Bokförlag.
- (utg.). 1976. *Kontrastiv fonetik och syntax*. Lund: LiberLäromedel.
- 1985. “Talet”, Pettersson, Åke & Lennart Badersten (utg.). *Språk i utveckling*, 9-53. Lund: Liber.
- Gårding, Eva & Olle Kjellin. 1998. *Vårt tal*. Uppsala: Hallgren & Fallgren.
- Hammarberg, Björn & Bengt Svensson. 1975. *Svenska som främmande språk — en lärobok*. Sveriges Radios förlag.
- Hedelin, Per. 1997. *Norstedts svenska uttalslexikon*. Norstedts förlag AB.

- Hedquist, Rolf. 1978. *Så uttalas svenskan*. Läromedel från institutionen för nordiska språk vid Umeå universitet, nr 2. Umeå: Umeå universitet.
- Håkansson, Marie & Annika Stenquist. 1989. *Om uttal*. Skriptor.
- Håkansson, Marie. 1991. *Öva uttal*. Skriptor.
- Lantmäteriverket och Svenska språknämnden. (utg.). 1991. *Svenska ortnamn — uttal och stavning*. Norstedts.
- Lindblad, Per. 1980. *Svenskans sje- och tje-ljud i ett allmänfonetiskt perspektiv*. Lund: CWK Gleerups.
- Lindholm, Hans. 1974. *Svensk grammatik*. Malmö: Kursverksamhetens förlag.
- Lundström-Holmberg, Eva & Peter af Trampe. 1987. *Elementär fonetik*. Lund: Studentlitteratur.
- Malmberg, Bertil. 1971. *Svensk fonetik*. Lund: Gleerups.
- 間瀬英夫. 1995. 「O. Engstrand によるスウェーデン語の IPA 表記について」, 『視聴覚外国語教育研究』18号, 13-30. 大阪外国語大学.
- 清水育男. 1995. 『現代スウェーデン語発音入門』. 大阪外国語大学.  
(= Ikuo Shimizu. 1995. *Inledning till svenskt uttal*. Osaka University of Foreign Studies).
- 1996. 「現代スウェーデン語における rd, rl, rn, rs, rt の前の母音の長短について」, 『IDUN』12号, 35-82. 大阪外国語大学デンマーク語・スウェーデン語研究室. (= Ikuo Shimizu. 1996. “Om vokallängd framför konsonantsekvenserna rd, rl, rn, rs, rt i nusvenska”, *IDUN* vol.12, 35-82. Osaka University of Foreign Studies).
- Skolverket. (utg.). 1996. *Svensk-engelskt lexikon*. Norstedts förlag.
- 菅原邦城・Claes Garlén 編. 1987. 『スウェーデン語基礎 1500 語』. 東京: 大学書林.
- Svenska språknämnden. (utg.). 1977. *Uttalsordlista*. (Tredje upplagan). Esselte Studium.

- Thorén, Bosse & Nils-Owe Pettersson. 1992. *Svenska utifrån. Uttalsanvisningar*. Svenska institutet.
- Westergren, Agneta. 2000. *Svenska med melodi. Om uttal i svenska språket*. Natur och Kultur.
- Widmark, Gun. 1972. *Om uttal och uttalsnormering*. Ord och stil, nr 4. Lund: Studentlitteratur.
- Öhman, Sven. 1998. *Slappt uttal. Snabbkurs i fonetik*. Nora: Bokförlaget Nya Doxa.

# 著 者 紹 介

清水 育男 (しみず いくお)

専門：スウェーデン語学

経歴：東京外国語大学卒

ウップサーラ大学大学院ノルド語学科博士課程単位取得退学。  
現在、大阪外国語大学教授。

著書：『英語対照 ノルウェー語会話』（大学書林）

『現代スウェーデン語発音入門』（大阪外国語大学）

『世界のことば100語辞典 ヨーロッパ編』（共著：スウェーデン語担当）（三省堂）

訳書：『スウェーデンの怪奇民話』（評論社）、『サガ選集』（共訳）（東海大学出版会）、  
『デンマーク文学史』（共訳）（ビネバル出版）、『北欧社会の基層と構造2 北欧  
の自然と生業』（共訳）（東海大学出版会）、『北欧社会の基層と構造3 北欧の  
アイデンティティ』（共訳）（東海大学出版会）、『アイスランドのサガ 中篇  
集』（共訳）（東海大学出版会）

世界を学ぶオリジナル語学教材シリーズ

スウェーデン語発音概説

---

2002年3月29日発行

著者 清水 育男

発行者 〒562-8558 箕面市粟生間谷東8丁目1番1号

**大阪外国語大学**

「世界を学ぶ 語学シリーズ」プロジェクト

(代表 橋本 勝)

印刷所 〒531-0072 大阪市北区豊崎7-7-7-101

**(株)アイジイ**

TEL 06-6371-0321

---

## 世界を学ぶオリジナル語学教材シリーズ

- 橋本 勝 『日本語・モンゴル語会話集』 1994年  
 福原 信義 『アラビア語会話入門』 1994年  
 早稲田 みか 『ハンガリー語の音韻と形態入門』 1994年  
 \* \* \* \* \*
- S. N. Ikeda et al. Português Formal e Informal 1995年  
 伊藤 太吾 『ロマンス語比較会話』 1995年  
 清水 育男 『現代スウェーデン語発音入門』 1995年  
 \* \* \* \* \*
- 橋本 勝 『モンゴル文語入門』 1996年  
 E. プレブジャブ  
 林田 理恵 『ロシア語中級教程』 1996年  
 上原 順一  
 古川 裕 『ヒアリング・チャイナナウ』 1996年  
 森村 書 『インドネシア語』 1996年  
 \* \* \* \* \*
- A. オラボデ 『ヨルバ語入門Ⅰ』 1997年  
 小森 淳子  
 張 淑儀 『広東語会話中級』 1997年  
 上 神忠彦  
 上 神忠彦 『話して学ぶ広東語中級』 1997年  
 張 淑儀  
 \* \* \* \* \*
- 伊藤 太吾 『超特急ルーマニア語』 1998年  
 高階 美行 『現代標準アラビア語入門』 1998年  
 \* \* \* \* \*
- A. オラボデ 『ヨルバ語入門－会話・読本』 1999年  
 小森 淳子  
 勝田 茂 『オスマン語入門』 1999年  
 森 茂男 『ペルシア語中級文法』 1999年  
 \* \* \* \* \*
- 田中 仁 『中国語中級読本－20世紀の中国政治20講－』 2000年  
 松村 耕光 『ウルドゥー語基本文法』 2000年  
 \* \* \* \* \*

- 神 山 孝 夫 『ロシア語発音入門』 2001年  
H. Rajabzadeh 『ペルシア語用例集』 2001年  
劉 曉 娟 『現代漢語会話』 2001年  
王 海 燕 『現代漢語初級口語』 2001年  
\* \* \* \* \*  
郭 鵬 『中級漢語綜合表達』 2002年  
清 水 育 男 『スウェーデン語発音概説』 2002年  
森 茂 男 『ペルシア語初級文法』 2002年  
渡 辺 麗 玲 『現代漢語語法課程』 2002年